

2025 年度
総合資料



Ichinoseki

一般社団法人 一関青年会議所

JCI Creed

The Creed of Junior Chamber International

We Believe;

That faith in God gives meaning and purpose to human life ;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations ;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise ;

That government should be of laws rather than of men ;

That earth's great treasure lies in human personality ; and

That service to humanity is the best work of life

【意識】

我々はかく信じる：

「真理は人生に意義と目的を与え

人類の同胞愛は国家による統治を超越し

公正な経済は我々の自由な経済活動によってこそ果たされ

政府には人治ではなく法治が必要であり

人間の個性はこの世の至宝であり

人類への奉仕が人生最大の使命である」

JCI Mission

To provide leadership development opportunities
that empower young people to create positive change.

【意識】

青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する。

JCI vision

To be the foremost global network of young leaders.

【意識】

青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを先導する組織となる。

J C宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

綱 領

われわれ J A Y C E E は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じくする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

東北 J C 宣言

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う

JC（青年会議所）とは

青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感を持った20歳～40歳までの指導者たらしとする青年の団体です。人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意思によりその居住する各地域の青年会議所に入会することが出来ます。

全国的運動の総合調整機関として日本青年会議所が東京・千代田区にあります。また、アメリカ・チェスターフィールドには国際青年会議所（JCI）事務局があります。現在、118の国及び地域に105国家青年会議所（NOM）を数え、150,000人（2021年1月現在）が国際的な連携を持って活動しています。

日本青年会議所の綱領には、青年会議所の行動理念と目標を明確に表現しています。創立以来の「三信条」は、JC運動の歴史を追って具体化され、青年会議所運動とは、「指導力開発（LD）と社会開発（CD）」であるとも言われてきました。その後に、JC運動の基軸は「自らに活力と知力を兼ね揃え積極果敢に社会改革運動を実践できる人間」であるとの考えから「人間力開発」も必要であるとし、日常の活動の場を通じて、我々自身を開発し、市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所なのです。

JC 三信条

トレーニング＝個人の修練
サービス＝社会への奉仕
フレンドシップ＝世界との友情

1950年5月1日にJCの行動綱領としてこの三信条が採択されました。JC運動は若い人々が集まって自己啓発・修練を行う場であり、培われた力を用いて地域社会にサービス（奉仕）することであると示されました。ただし、上記に記載されたフレンドシップ（友情）とは違う意味で、会員全員、同志を貫く友情があるということと言うまでもありません。

なお、これらの言葉以外にも Jaycee を表す言葉として、「英知と勇気と情熱」と表現されることが多いが、この言葉は下記の文節から採用されたとされている。

英知「変えていくものと残すもの、その2つを見分ける英知を我に与えたまえ」

勇気「変えるべきものを変える、チャレンジする勇気を我に与えたまえ」

情熱「変えてはならないものを受け入れる、その冷静さを我に与えたまえ」

目 次

■2025年度基調編

理事長所信	pg. 8
スローガン、基本理念、基本方針	pg. 12
組織図	pg. 13
2025年度出向者	pg. 14

■事業計画

地域経済向上委員会	pg. 16
組織の力向上委員会	pg. 18
賑わい夏まつり委員会	pg. 20
未来へつなぐ70周年事業委員会	pg. 22
未来へつなぐ70周年式典委員会	pg. 24
副理事長	pg. 26
事務局	pg. 27
監事・外部監事	pg. 28
出向者	pg. 29

■2024年度報告編

理事長報告	pg. 32
会務報告	pg. 34
組織図	pg. 47

■事業報告

委員会事業報告	pg. 48
出向者報告	pg. 53
会員移動報告	pg. 55

■資料編

pg. 57

基 調 編



一般社団法人一関青年会議所 第 70 代理事長 阿部 真岐

【理事長所信】

はじめに

私は一関から車で 15 分ほどの宮城県栗原市で育ちました。幼少期よく遊びにきていたここ一関市の駅前にはデパート、ゲームセンター、カラオケなどの娯楽施設、多くの飲食店、そしておしゃれな雑貨屋、古着屋もあり、商店街は活気に溢れていました。幼い私には街を歩くお兄さんやお姉さんは、かっこよく、きれいで、キラキラしているように見え、ここに住んだら私もこんなかっこいい大人になれるんじゃないかなという憧れを抱いた事を今でも覚えています。19 歳のとき、結婚を機に当時憧れていた一関に住むこととなりましたが、知らない土地での新生活は不安でいっぱいでした。その後、無知な私は、育児においても、地域の人とのつながりが薄く、孤独すら感じるようになりました。不安と孤独を感じる当時の生活は思い描いていたキラキラしたものとはまったく違うものでした。そんななか転機が訪れたのは、私が 24 歳のとき、この一関青年会議所に出会いました。その中で様々な方と関わりを持たせていただいたのですが、ある時、青年会議所でお世話になっている先輩からこんな話を聞きました。「息子がね、[僕はママのお店の隣の土地を買ってそこでかき氷屋さんをやりたいんだ]って言っているんだよね！その為におこずかいを半分貯金してるのよ」。当時先輩のお子さんは 7 歳位だったと思いますが、その話を聞き、私はとても嬉しく思いました。先輩のお子さんがこの地域に夢を描いた事と私が幼少期に抱いたキラキラした一関への憧れへの思いがリンクしたように思えたのです。私が理事長という職をお預かりするにあたり、そのような思いを持つ子供が多ければ今ある地域課題解決の一手となると感じたのです。無知であった私がこのように考えられるようになったのは、この地域に育てていただいたからです。当時のような孤独はなく、現在は一関に知人や、支えてくださる方、先輩や後輩、仲間ができたと共に地域の歴史や、文化、魅力など多くの物を知り、新たな気づきを得る事ができたからこそ今があるのだと実感しています。それ

は仕事の繋がりはもちろんですが、それだけではなく、地域との繋がり、地域の人との繋がりがあったからです。そして知る事により成長と学びを得る事も出来ました。この感謝の気持ちを形にし、愛するこの地域がこれからも続くよう、そして未来を担う子供達が夢を描ける地域であると思えるような地域をつくり、未来につなげていきます。

子どもが夢を描ける地域へ

一関市では、転出による理由から男性は18歳から19歳、女性は17歳から18歳の減少率が最も高くなっており、一方で20代の人口が最も少ないことから、進学や就職などの理由で他地域へ転出した後に地元へ戻る人が少ないということが考えられます。若者世代の転出が進み、将来労働力の中核として経済に活力を生み出す存在になる世代の人口減少によって、地域経済の衰退、担い手不足などの影響を及ぼします。このような現況において、「子どもが夢を描ける地域」であることが必要です。私には18歳を迎えた息子がおります。息子に「学校を卒業したら一関に戻ってくるの？」と聞いたところ、「戻ってこないよ。戻ってきても何をすればいいかわからないし、都会の方がいい」と言われました。これが息子の今の本音なのかと、私はとてもショックを受けました。地方は、サービスや働き先の選択肢が少ないなどのデメリットがありますが、そればかりではありません。地元ならではの食や文化、慣れ親しんだ環境、家族や友人との関わり、地域活性に貢献するなど、地元暮らしに関わるメリットは多く存在します。このような今ある地域の魅力を子どもたちに知ってもらい、そして魅力や選択肢を増やしていくことが、子どもが夢を描ける地域を作ることであり、それが地域の活性化につながります。人が集い賑わう、活気のある地元で育った子どもたちが、この地域に夢を描くのです。今後、一関が「子どもが夢を描ける地域」になるよう運動を展開して参ります。

地域経済の向上

現在、一関市の少子高齢化や人口減少は極めて厳しい状況下であり、このような一関の現況において、私は「関係人口」を増やすことが重要だと考えます。関係人口とは、地域外からこの地域と継続的かつ多様に関わる人々のことです。地域に対し深い関わりを持つことで、スポットの消費に留まらず、地域づくりの担い手創出の一助となり、ひいては地域活性化や持続可能な地域をつくることに繋がります。そのために私たちが出来るのは「地域の魅力を発信する」ということです。一関は岩手県の玄関口に位置し、各所へのアクセスも良好。県外・外国人観光客や出張での訪問客を誘致するにはとても良い立地です。また、地元の幸に恵まれ、銘菓も多いことから、食にも魅力があります。地域ならではの特産品や観光地、または特色を深く知り、そして、そこに住む人や働く人との関わりを持つことで関係人口の増加にアプローチすることが出来ます。今後、一関の魅力を多くの人に伝えることで、一関に集う人が増え、さらに一関と関わる人が増えていく事で地域経済の向上を図り、子供が夢を描ける地域となるよう運動を展開して参ります。

会員拡大と地域のリーダー育成

地域をつくるのはあくまでも人です。人の成長が地域の成長に繋がり、それがより良い地域へと発展していきます。そのためには次世代のリーダー育成を行い、リーダーを一人でも多く増やすことが必要です。

リーダーを育成する場として、青年会議所の活動はとても適していると考えます。青年会議所では「個人の成長、地域との関わり、国際交流、ビジネスのチャンス」といった 4 つの機会を設けており、この機会を活かすよう積極的に参加することで、自己成長することが出来ます。しかし、この機会を活かすかどうかは自分次第。私も長年にわたり所属しておりますが、その機会を掴み切れず、成長することに足踏みをしてしまった経験があります。私のような後悔をするメンバーを少しでも減らし、地域を担う次世代のリーダーを育成すべく、青年会議所活動への積極的な参加を促して参ります。また、今ある地域課題の解決を進めていく上で次世代のリーダー候補を増やすことも必要です。そのために重要なのが、会員拡大に対して前向きに取り組める体制を作ることです。メンバー一人一人が青年会議所のことを深く理解し、魅力を体感する。そして、「この経験を人に共有したい」、「同じ活動をする仲間を増やしたい」という思いが、前向きかつ積極的な拡大活動につながるのです。今後、メンバーの誰もが青年会議所を語れる組織を作り、皆が拡大の意義や目的を持って拡大活動できるように取り組んで参ります。

二代目時の太鼓大巡行による賑わいの創出

日本ならではの文化「お祭り」は賑わいを創出し地域活性化に繋がります。

我々、一関青年会議所が主管し、毎年夏まつり 2 日目に行われる『二代目時の太鼓大巡行』は、1976 年に「時の太鼓兄弟 揃い打ち巡行」から始まり、1983 年に二代目時の太鼓を新調し、本年で 42 年という歴史を持つ地域の歴史深き文化となっております。これは一関の文化であり、毎年賑わいをもたらし、この独自の地域文化は一関にとっての強みでもあります。しかし、年々、担い手の減少や、参加者、観覧者の数が減っており賑わいの希薄化が進行しつつあります。この地域の強みを後世に残していくには、担い手の増加はもちろんの事、この地域独自の文化をより多く発信し、地域に興味や関心を抱く人を増やすことが重要となってきます。また二代目時の太鼓をよりインパクトのある地域の強みとする為に新たな価値をデザインし、地域文化に興味、関心を持ってもらう人を増やし、機会をつくる事により多くの人へ伝播させ、交流人口を増やし地域の賑わいによる活性化を目指して参ります。

70 周年事業地域の未来をつくる青少年へ向けて

一関青年会議所は長きにわたり、青少年育成に力を入れてきました。小・中・高生 と対象は違えども青少年育成はこの日本、地域を支える子どもたちにとって大事なことであります。70 周年を迎える青年会議所は今後も地域が明るく豊かであり続けていく上で、今ある、少子高齢化や人口減少、若物流出という課題に向き合い、減少傾向にある地域の子供達にも、地元に住み暮らしたい、この街に残りたいなどと夢を描けると思えるような地域になる事が必要だと考えます。成長期における地元での体験や経験は地域に対する愛着心を育てます。そういった体験、経験を通じて、この地域を好きになる子どもや、住み暮らしたいと思える子どもを増やしていきたいと考えます。この地域ならではの体験をすることで、子供たちの地域に対する愛着心を醸成し、次代を担う子供達が、将来に夢を描き、地域に居る事、帰ってきたいと思う事で、より良い地域の未来をつくる運動を展開してまいります。

感謝と未来へ

1955 年に一関青年会議所は全国で 78 番目の青年会議所として発足しました。70 年前と言えば、電気洗

濯や白黒テレビ、冷蔵庫などの三種の神器が登場した時代です。そこから 70 年。今では誰もが携帯電話を持ち、スマートフォン一台で大抵のことができてしまう時代。世は大きな変化と進歩を遂げました。青年会議所でも時代と共に運動や手法は日々変化し、変化を続けてきましたが、受け継がれる思いは変わりません。それは一重に先輩諸兄姉が英知と勇氣と情熱を持って明るい豊かな社会をつくりあげようと志を持ち、仲間と共にこの地域に向き合ってきた賜物だと思います。決して平たんな道のりではなく、先輩諸兄姉が築き上げた実績と、信頼が礎となりこの 70 年という年月を迎えられたのだと実感しております。一関青年会議所が 50 周年を迎えた際に『50 周年宣言』というものが作成され、その中に『遂げずばやまじの精神でこのまちをあかるい豊かなまちにするように、またやさしい心の満ち溢れるまちにするように』という一文があります。この思いを受け継ぎ、未来に繋げていくことが私たちの責務です。また、現在までの一関青年会議所を支え、支援していただいた地域の方や、家族、仕事仲間など、この組織が多く支えにより運営できていることを忘れてはなりません。先輩諸兄姉から受け継いだ未来への思いと、これまで支えてくださった方々への感謝の気持ちを原動力とし、今後も地域に求め続けられる組織としてあります。そしてそのために、より良い地域の未来を目指すと共に、一関の素晴らしさを再認識するための活動を展開して参ります。

結びに

青年会議所は 40 歳で卒業を迎えてしまう組織です。長年所属している私は幾度となく先輩方の卒業を見てきました。共に活動してきたメンバーの卒業は、不安と寂しさを感じるものです。しかし、ある先輩がこのような言葉を残していきました。「青年会議所は卒業がゴールではない。ここからが本当の地域を担うリーダーとしての力を発揮する場だ」と。私はその言葉に衝撃を受け、この組織を通して私自身が成長しなければいけないと強く感じました。40 歳までという限られた時間は、成長の時です。だからこそ、この一年間を有効に使い、率先して行動を起こして参ります。私のように、この地域に対し希望と魅力を感じる人、この地域に住み暮らしたいと思う人、この地域を愛する人が増えてほしいと切に願います。青年会議所の活動を通じて数ある地域課題の解決をしていくことが私たちの使命であり、今できる地域への恩返しと、未来に向けて歩む道です。私が出来る恩返しとして、一関がより良い地域になるよう運動をしていくことを誓い、メンバーと共に邁進して参ります。

【スローガン】



【基本理念】

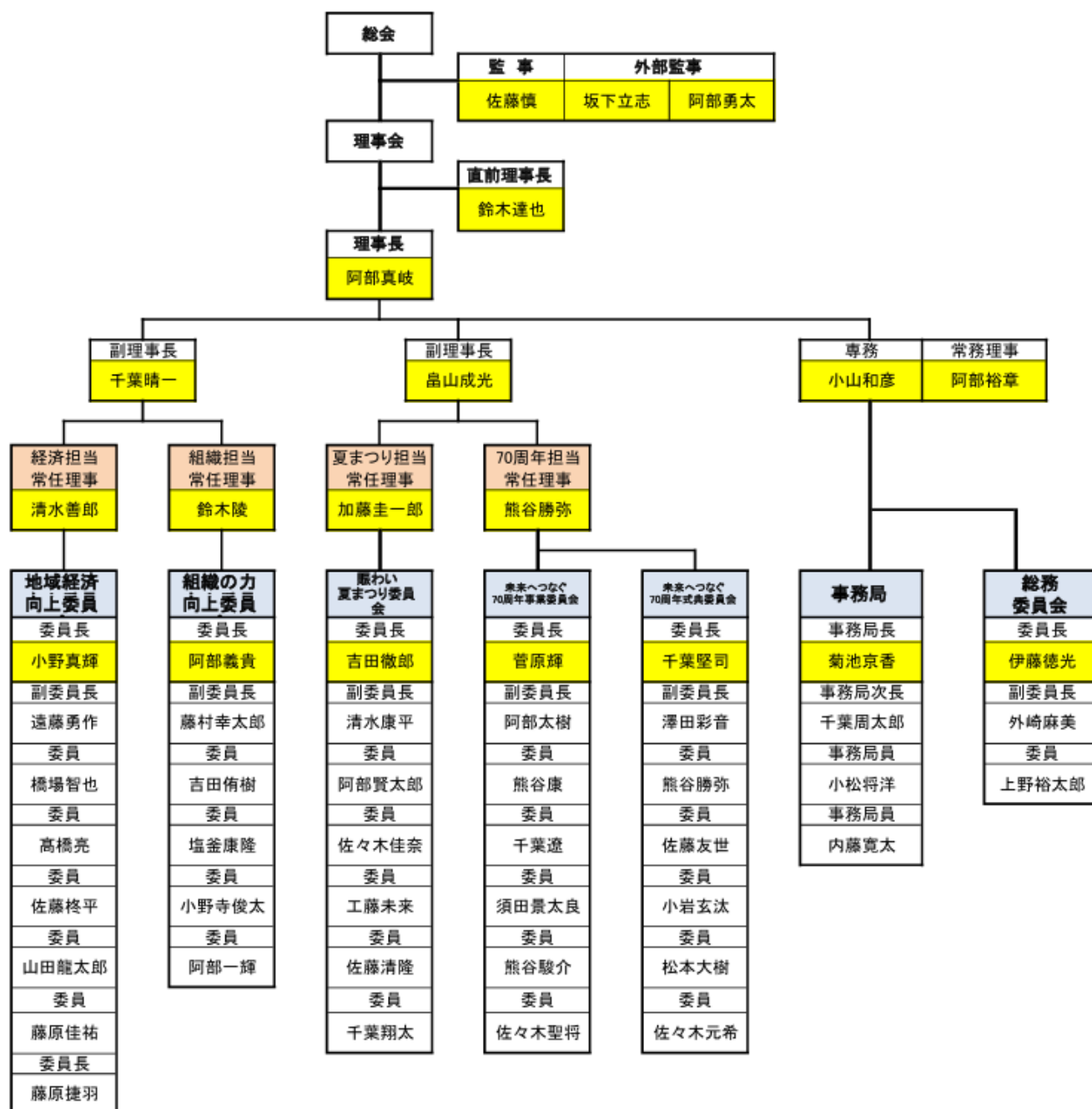
子どもが夢を描ける地域の創造

【基本方針】

1. 関係人口の増加による地域経済向上に向けた運動の推進
2. 地域のリーダー育成と会員拡大の推進と実施
3. 二代目時の太鼓大巡行による地域活性化と賑わい創出に向けた運動の 推進
4. 青少年の地元への愛着心の醸成に向けた運動の推進
5. 感謝を伝え未来につなぐ 70 周年式典の実施持続可能な組織づくり

一般社団法人一関青年会議所

2025 年度 組織図



一般社団法人一関青年会議所

2025 年度 出向者

◆ 2025 年度 公益社団法人日本青年会議所

地域共創会議	副 議 長	千葉 晴一	君
地域共創会議	幹 事	鈴木 陵	君
地域共創会議	幹 事	鈴木 達也	君
地域共創会議	委 員	佐藤 慎	君
域共創会議	委 員	清水 善郎	君
地域共創会議	委 員	高橋 亮	君
地域共創会議	委 員	阿部 義貴	君
地域共創会議	委 員	小野 真輝	君
スポーツの力委員会	委 員	畠山 成光	君
スポーツの力委員会	委 員	須田 景太良	君
スポーツの力委員会	委 員	千葉 遼	君

◆2025 年度 公益社団法人日本青年会議所 東北地区協議会

LOM 支援委員会	委 員	鈴木 達也	君
-----------	-----	-------	---

◆2025 年度 公益社団法人日本青年会議所 東北地区 岩手ブロック協議会

岩手ブロック協議会	副 会 長	鈴木 達也	君
岩手の未来創造委員会	委 員 長	佐藤 慎	君
事務局	次 長	小岩 玄汰	君
事務局	局 員	山田 龍太郎	君
岩手の未来創造委員会	幹 事	遠藤 勇作	君
ブロック大会運営委員会	委 員	菅原 輝	君
連携推進委員会	委 員	千葉 周太郎	君
総務広報委員会	委 員	藤村 幸太郎	君
いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	阿部 太樹	君
いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	伊藤 徳光	君
いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	小野 真輝	君
いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	菊池 京香	君
いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	外崎 麻美	君
いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	藤村 幸太郎	君
いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	佐々木 聖将	君
いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	千葉 遼	君
いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	阿部 一輝	君
いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	遠藤 勇作	君

いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	佐々木 元希	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	小野寺 俊太	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	清水 康平	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	千葉 翔太	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	熊谷 駿介	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	塩釜 康隆	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	松本 大樹	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	藤原 佳祐	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	佐藤 清隆	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	内藤 寛太	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	山田 龍太郎	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	佐々木 加奈	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	工藤 未来	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	上野 裕太郎	君
いわて J A Y C E E アカデミー委員会	塾	生	藤原 捷羽	君

< 2025年度委員会事業計画 >

■ 地域経済向上委員会



常任理事 清水 善郎

今年度、地域経済向上委員会の担当常任理事を仰せつかりました清水です。

地域の経済向上につながる運動を推進していくため、小野委員長やメンバーをしっかりと支えて参ります。1年間よろしくお願いいたします。



委員長 小野 真輝

地域経済向上委員会事業計画書

副理事長	千葉 晴一
常任理事	清水 善郎
委員長	小野 真輝
副委員長	遠藤 勇作
委員	橋場 智也
委員	高橋 亮
委員	佐藤 柊平
委員	山田 龍太郎
委員	小野寺 駿
委員	藤原 佳佑

○ 委員会スローガン

温故知新～地域の魅力を見つめなおして新たな価値を～

○ 基本方針

地域の質的価値を認識して更に磨き上げ、それを基に地域内外との関係性を構築してワクワクする未来をつくる

○ 基本計画

- ・地域の質的価値を発見・認識し、地域の魅力を対外に向けて発信する取組の実施・運営
- ・地域活性化や持続可能な地域づくりに向け、関係人口の増加に資する事業の実施・運営
- ・地域内外の人たちに当地域の質的価値に触れる機会を提供し、双方向の関係性を構築する事業の実施・運営

○ 抱負

少子化の進展によって定住人口の減少は避けられないものの、地域の資源や特色を活用して経済活動の向上を目指すことが必要です。

子どもが夢を描けるよう、まずは大人たちが夢を語ってその描き方を見せられるような一関を地域内外の方々を巻き込んでつくってまいります。

スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会主管				○					○			

■組織の力向上委員会



常任理事 鈴木 陵

この度、2025 年度組織の力向上委員会の担当常任理事の職をお仰せつかりました鈴木陵です。担当常任理事としての職務と責任を果たしながら、昨年入会いただいた多くのメンバーが大いに活躍できる場、そして機会を提供し、更なる会員拡大をしていけるよう青年会議所活動、運動に取り組んで参ります。一年間よろしくお願い致します。



委員長 阿部 義貴

組織の力向上委員会事業計画書

副理事長	千葉 晴一
常任理事	鈴木 陵
委員長	阿部 義貴
副委員長	藤村 幸太郎
委員	阿部 一輝
委員	吉田 侑樹
委員	塩釜 康隆
委員	小野寺 俊太

○ 委員会スローガン

Selfless - 人をおもいやる -

○ 基本方針

地域のリーダー育成と会員拡大の推進と実施

○ 基本計画

- ・ JC 活動に共感してもらう事業の実施
- ・ 個人事業主・新規開業者に活動を周知してもらう事業の実施
- ・ 新規入会者への不安を解消できるツール作成の実施
- ・ 新入会員向けセミナー・JC プログラムの実施
- ・ 新入会員と既存会員との隔たりを改善する環境整備の実施
- ・ 会員拡大のリスト整理及び声掛けの実施

○ 抱負

現在の青年会議所は入会 3 年以内の会員が 71%を占め、経験や意識に差が生じていると考えます。そのため、会員育成のためにも全員が JC の魅力を他人に伝えることができることが必要であると考えます。

この度委員長を務めさせていただくにあたり、すべてのメンバーが積極的に拡大活動を行える環境づくりを整えていく事で会員拡大と会員育成をともに実現する 1 年にいたします。

スケジュール	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
例会主管			○									

■賑わい夏まつり委員会



常任理事 加藤 圭一郎

「二代目時の太鼓大巡行」を核に、一関夏まつりの魅力をさらに高める活動を行ってまいります。また、伝統文化を守りながらも新たなアプローチを取り入れ、地域住民と観光客が一体となる場を創出し、次世代を担う若者たちが積極的に参加したいと思えるような夏まつりを未来へ繋げる活動を展開して参ります。1年間よろしくお願いいたします。



委員長 吉田 徹郎

賑わい夏まつり委員会事業計画書

副理事長	畠山 成光
常任理事	加藤 圭一郎
委員長	吉田 徹郎
副委員長	清水 康平
委員	那須 一樹
委員	阿部 賢太郎
委員	佐々木 佳奈
委員	千葉 翔太
委員	佐藤 清隆
委員	工藤 未来

○ 委員会スローガン
NEW ERA-革新の鼓動、新風を呼び、未来を創る-

○ 基本方針
新たな価値の創出と伝統の融合

○ 基本計画
・地域内外の団体とのコラボレーションの実施。
・観覧者及び協力団体が安心して祭りに参加するための安全管理の徹底。
・毎年参加したいと思える二代目時の太鼓大巡行の実施。

○ 抱負
「二代目時の太鼓大巡行」の伝統を守りながらも、若い世代が積極的に参加できる場を創出し、地域全体が一体となる新しい夏祭りの形を目指します。
現代の課題である若者の流出や観客減少を克服し、地域文化を次世代に引き継ぐため、伝統の魅力に新しい価値を加える挑戦をしていきます。伝統と革新が調和する祭りを通じ、地域の賑わいを創り出す活動に尽力してまいります。

スケジュール	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
例会主管					○							

■未来へつなぐ 70 周年事業委員会



常任理事 熊谷 勝弥

2025 年度未来へつなぐ 70 周年関連委員会の担当常任理事をお預かりします熊谷勝弥です。
本年一関青年会議所は創立 70 周年を迎え新たなる一步を踏み出す年となっております。阿部真
岐理事長の掲げる感謝～感謝からつなぐ未来～のスローガンのもと 70 年の歴史を紡いでくださ
った方々に感謝を伝え、これから踏み出す一步への決意を伝えさせていただく一年として参ります。



委員長 菅原 輝

未来へつなぐ 70 周年事業委員会事業計画書

副理事長	畠山 成光
常任理事	熊谷 勝弥
委員長	菅原 輝
副委員長	阿部 太樹
委員	熊谷 康
委員	千葉 遼
委員	須田 景太良
委員	熊谷 駿介
委員	佐々木 聖将

○ 委員会スローガン
背伸び ～そこから始まる成長～

○ 基本方針
体験・経験を通じた青少年の地元への愛着心の醸成

○ 基本計画
・地域ならではの体験をする機会を提供し、地元への愛着心を深める事業の実施・運営
・青少年が地域の一員である自覚を持ち、将来に向けた責任感や意欲を育むことのできる事業の実施・運営
・将来の地域や自分の未来像を考え、青少年が地域への夢を描けるような運動の推進

○ 抱負
一関市は若年層の転出が増加しており、進学や就職などの理由で他地域へ転出した後に地元へ戻る人が少ないという現状があります。未来へつなぐ 70 周年事業委員会では、未来にわくわくするような地域にするため、一関市の将来を担う子ども達に、地元への愛着を深める運動を展開してまいります。常に挑戦する気持ちを大切に、委員会一丸となって「背伸び」を重ね、次代への成長を支える活動を行ってまいります。

スケジュール	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
例会主管					○							

■未来へつなぐ 70 周年式典委員会



常任理事 熊谷 勝弥

2025 年度未来へつなぐ 70 周年関連委員会の担当常任理事をお預かりします熊谷勝弥です。
本年一関青年会議所は創立 70 周年を迎え新たなる一步を踏み出す年となっております。阿部真
岐理事長の掲げる感謝～感謝からつなぐ未来～のスローガンのもと 70 年の歴史を紡いでくださ
った方々に感謝を伝え、これから踏み出す一步への決意を伝えさせていただく一年として参ります。



委員長 千葉 堅司

未来へつなぐ 70 周年式典委員会事業計画書

副理事長	畠山 成光
常任理事	熊谷 勝弥
委員長	千葉 堅司
副委員長	澤田 彩音
委員	佐藤 友世
委員	小岩 玄汰
委員	松本 大樹
委員	佐々木 元希

○ 委員会スローガン

結束 ～70 年の感謝を力に～

○ 基本方針

「今まで」と「これから」をつなぐ運動を展開する

○ 基本計画

- ・みんなが「今まで」に感謝し、「これから」の運動へ意欲を引き出す式典・祝賀会の開催
- ・一関青年会議所の歴史を知り未来の可能性を感じる周年記念誌の発行

○ 抱負

一関青年会議所は 70 周年を迎えます。歴史ある節目を契機として、「結束～70 年の感謝を力に～」をスローガンに掲げ、これまで多くの先輩方の積み上げてきた実績に感謝し、紡いできた思いを未来へつなげていく事業を展開していきます。

スケジュール	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
例会主管										○		

■副理事長



副理事長 千葉 晴一

本年度、副理事長を拝命いたしました千葉晴一です。地域社会の発展と持続可能な未来を目指し、理事長をはじめ会員一同と共に全力で取り組んでまいります。特に私の担当分野であります地域経済、会員育成の点では、具体的な成果を生む活動を展開していく所存です。皆様の温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



副理事長 畠山 成光

今年は JC 歴 3 年目の年となります。歴としては決して長いとは言えませんが、副理事長という大役を任せていただけるという事は、私のここまでの JC 活動を認めていただいた！という事だと思います。先輩方が繋いでくださった一関青年会議所の副理事長として、恥じぬ活動・運動を展開してまいります。

■事務局

専務理事

小山 和彦



常務理事

阿部 裕章



事務局長

菊池 京香



事務局次長

千葉 周太郎

事務局員

小松 将洋

事務局員

内藤 寛太

総務委員会 委員長

伊藤 徳光



副委員長

外崎 麻美

委員

上野 裕太郎

■ 監事



監 事 佐藤 慎

本年が最後の年となり、監事という重要な役職をお預かりします。お世話になった LOM に恩返しができるような 1 年にしてまいりたいと存じます。これまでの一関青年会議所が守ってきたものが更に引き継がれていくよう精一杯役職を努めさせていただきます。一年間、どうぞよろしくお願い致します。



外部監事 阿部 勇太

昨年度に卒業した身分ではありますが、70 周年を迎える LOM を少しでもお支えできるように役職を全うして参りたいと思います。一年間、よろしくお願い致します。



外部監事 坂下 立志

昨年卒業した OB ながら 2025 年度も外部監事として携わることとなりました。現役監査と違う客観的な視点も持ちながら、適切な業務運営がなされるように 70 周年を迎える阿部真岐理事長体制を支えて行きたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願い致します。

■出向者



千葉 晴一

公益社団法人日本青年会議所

公益社団法人日本青年会議所地域グループ地域共創会議 副議長

地域共創会議では、地域の課題を共有し、多様な視点を取り入れながら、持続可能な社会の実現を目指します。地方創生には協力と創意工夫が不可欠であり、メンバー一人ひとりがリーダーシップを発揮し、具体的な行動に結びつけることが重要です。未来を担う次世代に誇れる地域を創るため、情熱を持って共創の輪を広げていきます。本会議が新たな価値を生み出す場となるよう全力で取り組みます。



鈴木 陵

公益社団法人日本青年会議所

公益社団法人日本青年会議所地域グループ地域共創会議 小幹事

本年地域共創会議 小幹事として一関 JC から出向させていただきます鈴木陵と申します。持続可能な社会を構築するため、地域共創の意義をより深めていき、私自身も日本各地の方々から吸収し成長していきます。そして、吸収したものを少しでも LOM へ還元し地域のために尽力していきたいと考えております。応援、ご支援の程宜しくお願い致します。



鈴木 達也

公益社団法人日本青年会議所

東北地区 岩手ブロック協議会 副会長

公益社団法人日本青年会議所地域グループ地域共創会議 小幹事

【岩手ブロック副会長】

この度、2025 年度公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会副会長として出向させていただきますこととなりました、鈴木達也です。

岩手県内の各 LOM が抱える課題や目標に寄り添い、地域社会に貢献する運動がさらに力強いものとなるよう、全力で支援に努めてまいります。

出向では、多くの学びとともに、県内各地の仲間とつながりを深められる機会に恵まれると考えております。この経験を地域・一関青年会議所に還元し、さらなる成長と新たな運動の展開に繋げていく所存です。

私たちが地域に根ざした持続可能な運動を実現するためには、「つながり」と「協力」が欠かせません。2025 年度は、この想いを胸に、LOM 間の連携をより強化し、地域全体の発展を目指して邁進してまいります。

皆様の変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

【地域共創会議 小幹事】

2025 年度は、公益社団法人日本青年会議所地域共創会議の小幹事として、地域の課題解決や魅力発信に向けた活動に挑戦してまいります。この貴重な機会を通じて、多様な地域の声に触れ、全国各地の仲間たちとの連携から新たな視点や知見を得ることができると確信しています。

これらの学びやつながりを一関青年会議所の活動に還元し、地域の発展と LOM のさらなる活性化につなげていきたいと考えています。未来を創る力は人と人のつながりの中にあります。その力を最大限に活かし、私たちの地域に明るい希望と新しい価値を届けられるよう、千葉副議長を支えながら全力を尽くしてまいります。

皆さまのご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



佐藤 慎

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
岩手の未来創造委員会 委員長

本年、岩手の未来創造委員会委員長として岩手県内各地で抱える課題や問題に対して、当事者の意識変革から将来に対して希望を描ける地域の実現を目指します。地域に住み暮らす自覚を持つために岩手ブロック大会メインフォーラムでは地域資源の活用から新たな価値を創造、そして、若年層が地域社会について興味関心を持つ主権者意識向上の 2 つの事業を行ってまいります。応援、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



小岩 玄汰

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
事務局 事務局次長

2025 年度事務局次長として出向させていただきます。2 回目の出向ではありますが、自分ができることを精一杯させて頂く所存でございます。岩手ブロック協議会にて学んだことを LOM に還元できるよう努めて参ります。一年間どうぞよろしくお願い致します。

報 告 編

〈2024 年度理事長報告〉

一般社団法人一関青年会議所



2024 年度理事長 鈴木 達也

まずは平素より地域の皆さまをはじめ、関係諸団体、会員企業の皆さま、ご家族の皆さまに、一般社団法人一関青年会議所の活動・運動に多大なるご理解とご協力を賜りましたことを、心より厚く御礼申し上げます。

2024 年度は多くの皆様のお支えとご協力のもとにすべての事業を終えることができました。

2024 年度は、「LET'S BE POSITIVE ～新しい視点で新しい未来を～」をスローガンに掲げ、“子供達に「帰っておいで」といえるまちの創造“を基本理念に、“経済・暮らし・文化”の質を高めるため、様々な課題を地域がより良くなるチャンスと捉え未来に向けて事業の構築を行ってまいりました。

【経済 地域資源の価値向上と仕組みづくり】

地域未来創造委員会では、地域資源を最大限に活用することで、地域経済の質を高める取り組みを進めました。具体的には、インバウンド観光客向けに餅つきや日本酒の振る舞いを通じて、一関の文化的魅力を発信し、多くの来場者が地域の価値を再発見する機会を提供するとともに観光で訪れる人々が求めている地域の価値を再発見する機会となりました。また、御朱印コンテストを実施し、地域住民と来訪者が一関の歴史や文化に触れるきっかけを創出しました。この取り組みを通じて、新たな地域回遊の仕組みが生まれ、地域全体の価値向上に寄与しました。

【暮らし 地域課題の解決と未来を担う人材育成】

自立地域推進委員会では、人口減少や少子高齢化が進む中、持続可能な未来を見据えた課題解決にも注力しました。地域課題解決型のハッカソンでは、地元学生や事業者が一体となり、商店街の活性化や地域内移動のデジタル化など具体的な提案を生み出しました。この取り組みは、地域内外の連携を強化し、学生と地域の大人が一体となって新しい価値を生み出す貴重な経験となりました。さらに、このプロセスを通じて地域社会全体で課題解決に取り

組む基盤を築くことができました。

【文化 地域文化の継承と担い手の育成】

地域文化継承委員会では、地域文化を次世代に引き継ぐための取り組みとして、一関の伝統文化である「時の太鼓」に関する体験型事業を実施しました。この事業では、一関中学校関中太鼓委員会や一関第二高校太鼓道場部の生徒たちが参加し、一関の歴史を学びながら、太鼓の演奏を楽しく体験しました。この取り組みは、地域文化への理解を深めるだけでなく、次世代の文化担い手を育てる機会となりました。

また、この事業を通じて一関藩の歴史や文化を体現する重要な行事でもある「二代目時の太鼓大巡行」での担い手も増え、今年は田村家第 57 代当主田村任顕様にもスピーチをしていただき、田村家が現在も一関の歴史の一部として継続していることを再認識していただき、地域文化の魅力を伝え、観覧者の共感を呼ぶことができました。

【組織 組織の強化と地域運動の持続可能性】

「地域に必要とされる組織であり続ける」ことを目標に、会員拡大に全力で取り組みました。結果として、30 名以上の新規会員を迎え入れ、その中には多様な視点やスキルを持つメンバーが加わりました。これにより、組織の強化と地域運動の持続可能性を確保する一歩を踏み出しました。この成果は、全メンバーが一丸となり、地域課題解決への情熱を共有した結果であると感じております。

一年間を通じて目指した子供達に「帰っておいで」とい言える一関にするために「経済・暮らし・文化」の質を高める運動は、多くの皆様のお力添えの中で、地域資源の活用、新しい価値創造、そして地域全体での課題解決に向けた強固な基盤を築くことにつながりました。本年度の活動を支えてくださったすべての皆さまに心より感謝申し上げますとともに、2025 年度もさらに進化した運動を展開してまいります。一年間、誠にありがとうございました。

〈2024 年度会務報告〉

2024 年 1 月

2024年 1月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4	令和6年能登半島地震 支援物資送付	(株) 清水屋		メンバー
5	一関市賀詞交歓会	ベリーノホテル一関		鈴木達也
6				
7	1月例会新年交歓会	ベリーノホテル一関	16:00	メンバー
8	JCI花巻賀詞交歓会	ホテルグランシェール花巻	16:00	鈴木達也 清水善郎 坂下立志 阿部徹 畠山成光
9	JCI陸前高田新年交歓会	キャピタルホテル1000	19:00	熊谷勝弥 清水善郎 坂下立志 阿部勇太
10	JCI北上新春交歓会	ホテルシティプラザ北上	19:00	鈴木達也 千葉晴一 熊谷勝弥 坂下立志 阿部勇太 菅原輝
11	JCI奥州新年初顔合わせ	水沢グランドホテル	18:00	鈴木達也 佐藤慎 清水善郎 坂下立志 阿部徹 菅原輝 小岩玄汰
12	TGCteen推進委員会	なのはなプラザ	16:00	鈴木達也 佐藤慎 高橋亮
13	JCI盛岡新年交歓会	盛岡グランドホテル	15:00	鈴木達也 千葉晴一 熊谷勝弥 清水善郎 坂下立志 阿部 裕章
14				
15				
16	第1回常任理事会議	(株) 東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
17				
18	京都会議			鈴木達也 阿部 真岐 阿部徹
19	京都会議			鈴木達也 千葉晴一 清水善郎 阿部 真岐 坂下立志 阿部 徹 畠山成光
20	京都会議			鈴木達也 千葉晴一 熊谷勝弥 清水善郎 阿部真岐 坂下 立志 阿部徹 畠山成光 澤田彩音
21	京都会議			鈴木達也 千葉晴一 清水善郎 阿部真岐 坂下立志 阿部徹 畠 山成光 澤田彩音
22				
23				
24				
25	岩手ブロック協議会 会員会議所会議	大船渡		鈴木達也 役員メンバー
26	JCI大船渡新年会	大船渡プラザホテル	19:00	鈴木達也 佐藤慎 熊谷勝弥 坂下立志 阿部徹 菅原輝
27	一関青年会議所OB会 新年会	ホテル松の薫一関	18:30	鈴木達也 熊谷勝弥 清水善郎 阿部徹 畠山成光 千葉堅司
	JCI釜石新年交歓会	ホテルクラウンヒルズ	17:00	坂下立志 菅原輝
	JCI久慈賀詞交歓会	久慈グランドホテル	15:00	阿部賢太郎
	JCI遠野新年交歓会	あえりあ遠野	18:30	阿部勇太 阿部真岐
28	JCI陸中宮古賀詞交歓会	浄土ヶ浜パークホテル	16:00	坂下立志
29	第1回理事会議	なのはなプラザ	19:30	理事メンバー
30				
31	日本JC正副会頭会議	福岡	15:00	阿部徹

2024 年 2 月

2024年 2月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
1	岩手ブロックアカデミー社行式	和酒Dining もんど	19:00	メンバー
2	JCI田村新年会		17:00	鈴木達也
3	岩手ブロック協議会 第41期 岩手ブロックアカデミー開校式 新春のつどい	大船渡ブラザホテル	13:30 17:05	メンバー
4				
5				
6				
7				
8	一関地区法人会新年会	ホテル松の薫一関	19:00	鈴木達也 清水善郎
9	第2回常任理事会議	(株) 東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
10				
11	京都会議メインフォーラム 全国一斉インバウンド会議アー カイブ視聴会	なのはなブラザ	15:00	メンバー
12				
13				
14				
15	JCI栗原 交流会	ひといき酒場ヤッホ	19:00	メンバー
16				
17				
18				
19				
20	JCI常任副会頭 下山田敬介君を囲む会	Queen's Fonte	18:30	鈴木達也 清水善郎 阿部徹 畠山成光
21				
22				
23	第3回理事会議	なのはなブラザ	19:30	理事メンバー
24	2月例会 交遊フェス&スイーツパラダイス 2月定時総会	ベリーノホテル一関 なのはなブラザ	12:00 16:00	メンバー 新入会員候補者 メンバー
25				
26				
27				
28				
29	岩手ブロック協議会 会員会議所会議	北上		鈴木達也 役員メンバー

2024年3月

2024年 3月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
1	日本JC正副会頭会議	JC会館	15:00	阿部徹
2	岩手ブロックアカデミー第1講座	北上	12:30	鈴木達也 メンバー
3	勝部修氏旭日小綬章祝賀会	ペリーノホテル関	11:00	鈴木達也 メンバー
4				
5	倫理法人会モーニングセミナー(理事長講演)	ササキビル	6:00	鈴木達也 メンバー
	第3回常任理事会議	東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
6				
7	日本JC常任理事会議	JC会館	15:00	阿部徹
8	JCプログラムWEBセミナー	WEB	19:00	メンバー
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16	阿部徹顧問セミナー「コネなし君がJCに入会したら」	もんど	18:30	メンバー
17				
18				
19				
20				
21				
22	第3回理事会議	なのはなプラザ	19:30	理事メンバー
	第3回会員会議懇親会	久慈		※理事会同日のため出欠者なし
23	日本JC総会	ベルサール新宿セントラル	13:00	鈴木達也 阿部徹
24				
25	JCプログラムWEBセミナー「EL/Effective Lead」	WEB	19:00	メンバー
26	TGCteen実行委員会	一関市役所	17:30	鈴木達也 メンバー
27	JCプログラムWEBセミナー「JCI Impact」	WEB	19:00	メンバー
28	岩手ブロック第3回会員会議所会議	久慈	19:00	鈴木達也 役員メンバー
29	JCプログラムWEBセミナー「マインドマッピング」	WEB	19:00	メンバー
30				
31				

2024 年 4 月

2024年 4月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2	5月例会説明会	なのはなプラザ	19:00	メンバー
3				
4	日本JC正副会頭会議	高松市	15:00	阿部徹
5				
6				
7				
8				
9				
10	第4回常任理事会議	東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
11	日本JC正副会頭会議	JC会館	15:00	阿部徹
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19	岩手ブロック懇親会@一関	ベリーノホテル一関	19:00	鈴木達也 役員メンバー
	日本JC常任理事会議	JC会館	15:00	阿部徹
20	日本JC理事会議	JC会館	9:00	阿部徹
21				
22	新入会員セミナー	なのはなプラザ	19:00	メンバー
23				
24	岩手ブロック 麻生直前会頭訪問	遠野市	19:00	鈴木達也 メンバー
25	岩手ブロック第4回会員会議所会議in一関	なのはなプラザ	19:00	鈴木達也 役員メンバー
26	第4回理事会議	なのはなプラザ	19:00	理事メンバー
	日本JC正副会頭会議	東広島市	15:00	阿部徹
27				
28	田村神社神輿渡御お手伝い	大町	12:00	メンバー
29				
30	5月例会事業	狹鼻溪	7:00	メンバー

2024年5月

2024年 5月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7	第5回常任理事会議	東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
8				
9	日本JC正副会頭会議	大阪府箕面市	15:00	阿部徹
10				
11				
12	5月例会「太鼓の調べワークショップ」	一関八幡神社	9:00	メンバー
13				
14				
15				
16				
17	日本JC常任理事会議	東海東京証券	15:00	阿部徹
18	日本JC理事会議	東海東京証券	9:00	阿部徹
19	岩手ブロックアカデミー第2講座	花巻市	11:00	鈴木達也 メンバー
20	東北地区ゼミナールin一関	保健センター	9:00	阿部真岐 メンバー
21				
22				
23				
24	第5回理事会議	なのはなプラザ	19:00	理事メンバー
25	拡大セミナー 日本JC3顧問特別対談	ベリーノホテル一関	17:00	メンバー 新入会員候補者
26	奥州JC主催ブロック野球大会	奥州市	11:00	メンバー
27				
28				
29				
30	岩手ブロック第5回会員会議所会議	釜石市	19:00	鈴木達也 役員メンバー
31	日本JC正副会頭会議	沖縄県宮古島	15:00	阿部徹

2024年6月

2024年 6月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4				
5				
6	ASPACinカンボジア	カンボジア	9:00	阿部徹 坂下立志 千葉晴一
7	ASPACinカンボジア	カンボジア	9:00	阿部徹 坂下立志 千葉晴一
8	ASPACinカンボジア	カンボジア	9:00	阿部徹 坂下立志 千葉晴一
9	ASPACinカンボジア	カンボジア	9:00	阿部徹 坂下立志 千葉晴一
10				
11	第6回常任理事会議	東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
12				
13	日本JC正副会頭会議	JC会館	15:00	阿部徹
14				
15	3月例会事業「ハッカソン」(1日目)	一関高専	9:00	メンバー
16	3月例会事業「ハッカソン」(2日目)	一関高専	9:00	メンバー
17				
18				
19				
20				
21	日本JC常任理事会議	東海東京証券	15:00	阿部徹
22	日本JC理事会議	電波ビル(東京)	9:00	阿部徹
23				
24				
25	東北地区協議会第2回会員会議所会議	仙台	15:00	鈴木達也
26	岩手ブロック第6回会員会議所会議	奥州市(宇宙遊学館)	16:00	鈴木達也 役員メンバー
	会頭公式訪問	奥州市	18:00	鈴木達也 役員メンバー
27	第6回理事会議	なのはなプラザ	19:00	理事メンバー
28				
29				
30	日本JC正副会頭会議	JC事務局	15:00	阿部徹

2024年7月

2024年 7月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4				
5				
6	(6月例会)岩手ブロック大会in大船渡	大船渡市	8:00	メンバー
7				
8				
9	第7回常任理事会議	東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
10				
11	日本JC正副会頭会議	WEB	15:00	阿部徹
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18	日本JC常任理事会議	横浜市	15:00	阿部徹
19	日本JC理事会議	横浜市	9:00	阿部徹
	サマコン東北地区ナイト	横浜市	18:00	メンバー
20	サマーコンファレンス	横浜市	10:00	鈴木達也 千葉晴一 熊谷勝弥 清水善郎 阿部真岐 佐藤慎 阿部徹 阿部勇太 坂下立志 阿部裕章 畠山成光 千葉堅司 伊藤徳光 菅原輝 加藤昌範
	八千代青年会議所との交流会	横浜市	19:30	メンバー
21	サマーコンファレンス	横浜市	10:00	鈴木達也 千葉晴一 熊谷勝弥 清水善郎 阿部真岐 佐藤慎 阿部徹 阿部勇太 坂下立志 阿部裕章 畠山成光 千葉堅司 伊藤徳光 菅原輝 加藤昌範
22				
23				
24				
25	第7回理事会議	なのはなプラザ	19:00	理事メンバー
26	8月定時総会	ホテル松ノ薫	18:00	メンバー
27	一関の歴史講演(松本健樹先輩)	一八	19:00	メンバー
28				
29				
30				
31	7月例会『お天気まつり』	クラストン	18:00	メンバー

2024年8月

2024年 8月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2	夏まつり開会式	一関大町	17:00	鈴木達也
3	8月例会「二代目時の太鼓大巡行」	市役所～大町	9:00	メンバー
4	一関子供七夕みこし	文化センター～大町	9:00	メンバー
5				
6	第8回常任理事会議	東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17	岩手ブロックアカデミー第3講座	陸前高田市	9:00	役員メンバー
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24	一関地ビールフェスティバル開会式	文化センター屋外	10:00	熊谷勝弥
24	カシオペアJC55周年式典	一戸町コミュニティセンター (わわわのどお～も)	13:00	鈴木達也 阿部真岐 清水善郎 千葉堅司
25				
26				
27	第8回理事会議	なのはなプラザ	19:00	理事メンバー
28				
29	岩手ブロック第7回会員会議所会議	遠野市	19:00	鈴木達也 役員メンバー
30				
31				

2024 年 9 月

2024年 9月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
2	日本JC正副会頭会議	大阪市	15:00	阿部徹
3				
4				
5				
6				
7	東北青年フォーラムin青森	青森市	10:00	メンバー
8	東北青年フォーラムin青森	青森市	10:00	メンバー
9	日本JC正副会頭会議	事務局・WEB	15:00	阿部徹
10	第9回常任理事会議	東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
11				
12				
13	日本JC常任理事会議	東海東京証券	15:00	阿部徹
14	日本JC理事会議	電波ビル(東京)	9:00	阿部徹
15				
16				
17				
18				
19	日本JC正副会頭会議	帯広市	15:00	阿部徹
20				
21				
22	理事長杯ゴルフコンペ	一関カントリークラブ	9:00	メンバー
23				
24				
25				
26	岩手ブロック第8回会員会議所会議	陸前高田市	19:00	鈴木達也 役員メンバー
27	第9回理事会議	なのはなプラザ	19:00	理事メンバー
28				
29				
30	9月例会セレモニー・新入会員認証式	なのはなプラザ	19:00	メンバー

2024年10月

2024年 10月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4	日本青年会議所理事会、総会	福岡国際会議場	12:00	鈴木達也 千葉晴一 熊谷勝弥 阿部真枝 清水善郎 阿部徹 坂下立志 畠山成光 鈴木陵
5	全国大会in福岡	福岡国際会議場・マリン メッセ福岡	10:00	鈴木達也 千葉晴一 熊谷勝弥 阿部真枝 清水善郎 阿部徹 坂下立志 畠山成光 鈴木陵
6	全国大会in福岡	福岡国際会議場	10:00	鈴木達也 千葉晴一 熊谷勝弥 阿部真枝 清水善郎 阿部徹 坂下立志 畠山成光 鈴木陵
7				
8	第10回常任理事会議	東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
9				
10				
11				
12	釜石JC55周年式典	花ホテルはまぎく	13:00	鈴木達也 阿部真枝 清水善郎
13				
14				
15				
16				
17	日本JC正副会頭会議in一関	中尊寺	14:00	鈴木達也 千葉晴一 阿部真枝 清水善郎 阿部徹 坂下立志 阿部勇太 阿部裕章 畠山成光 加藤昌範 鈴木陵 小岩玄太 阿部太樹 遠藤勇作 外崎麻美
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25	岩手ブロック第8回会員会議所会議	宮古市	19:00	鈴木達也 役員メンバー
26	岩手ブロックアカデミー第4講座・卒業式			
27				
28				
29	世界会議	台湾		阿部徹 千葉晴一 阿部真枝
30	世界会議	台湾		阿部徹 千葉晴一 阿部真枝
31	世界会議	台湾		阿部徹 千葉晴一 阿部真枝

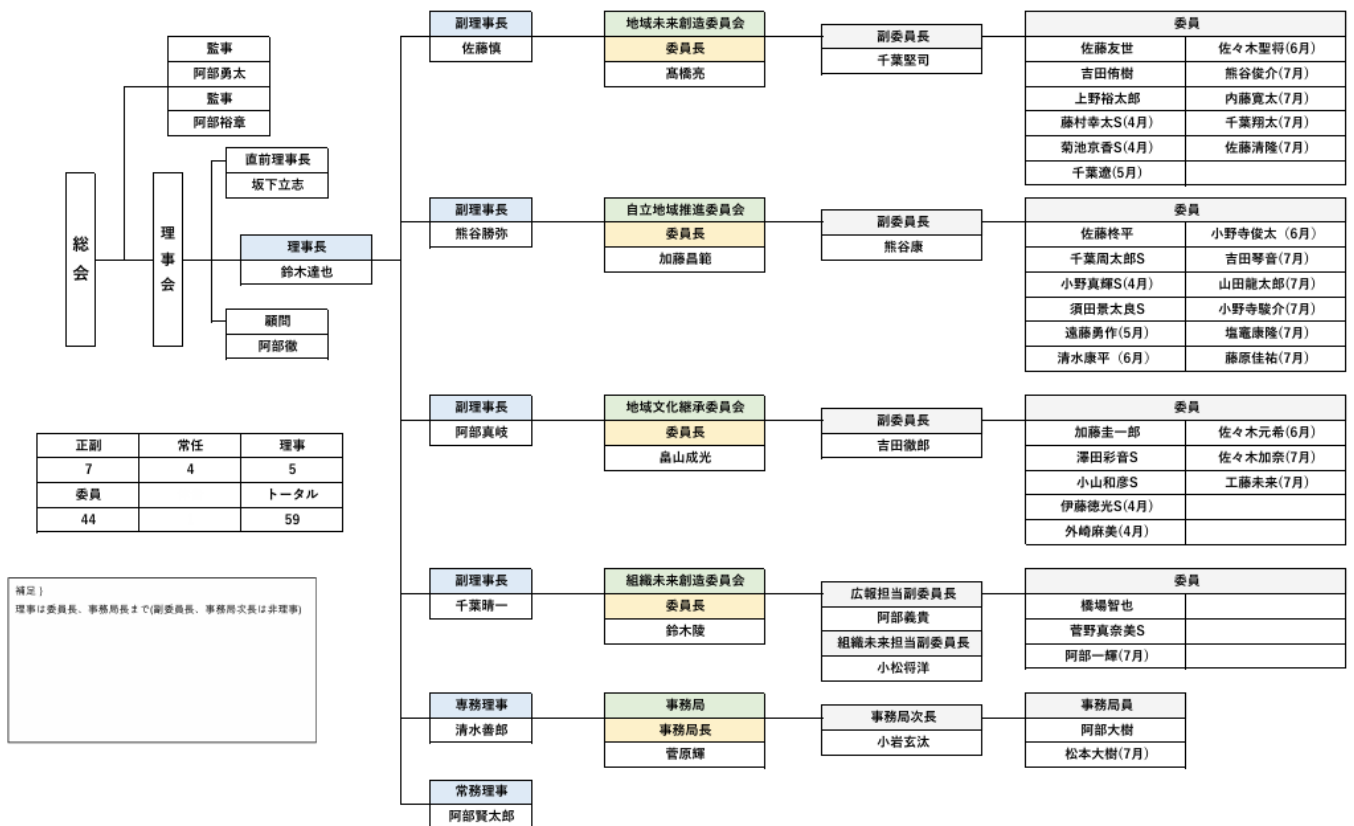
2024年11月

2024年 11月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
1	10月例会事業 御朱印デザインコンテスト 1次審査	なのはなプラザ	18:30	メンバー
	世界会議	台湾		阿部徹 千葉精一 阿部真枝
2	世界会議	台湾		
4	第4回常任理事予定者会議	つむぎ接骨院	19:30	常任理事予定者メンバー
5	第11回常任理事会議	(株)東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
6				
7				
8				
9	新入会員歓迎大懇親会	平泉倶楽部	17:00	メンバー
10	10月例会事業 御朱印デザインコンテスト 最終審査・表彰式	ベリーノホテル一関	10:00	メンバー
11				
12				
13				
14				
15	第4回理事予定者会議	なのはなプラザ	19:30	理事予定者メンバー
16	岩手ブロック協議会 会員会議所会議	大船渡プラザホテル	10:00	鈴木達也 役員メンバー
	岩手ブロック協議会 役員謝恩会	大船渡プラザホテル	15:00	鈴木達也 役員メンバー
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25	第11回理事会議	なのはなプラザ	19:30	理事メンバー
26				
27				
28				
29				
30	11月例会	一関産業教養文化体育施設	9:00	メンバー

2024年12月

2024年 12月				
日	行動内容	場所	時間	対応者
2	第5回常任理事予定者会議	つむぎ接骨院	19:30	常任理事予定者メンバー
3				
4				
5				
6	東北地区協議会 卒業式	仙台		鈴木達也 阿部真岐 千葉晴一 清水善郎 阿部徹 坂下立志 菊池京香
7	9月例会事業	ベリーノホテル一関	10:00	メンバー
8	岩手ブロック協議会 会員会議所会議	盛岡		鈴木達也 役員メンバー
9				
10				
11				
12	第12回常任理事会議	(株) 東北ウエノ	19:30	常任理事メンバー
13				
14				
15				
16				
17				
18	第5回理事予定者会議	コメスタ	19:30	理事予定者メンバー
19				
20				
21	12月例会卒業式	ベリーノホテル一関	15:00	メンバー
22				
23				
24				
25				
26	第1回臨時常任理事予定者会議	WEB	12:00	常任理事予定者メンバー
	第5回臨時常任理事会議	WEB	18:00	常任理事メンバー
	第12回理事会議	なのはなプラザ	19:30	理事メンバー
27	12月定時総会	なのはなプラザ	18:00	メンバー
28	時の太鼓納式	一ノ関駅	11:30	鈴木達也 阿部真岐 畠山成光
29				
30				
31				

〈2024 年度組織図〉



〈委員会事業報告〉

一般社団法人一関青年会議所 2024年度 報告書										カテゴリ			
グループ名		会議・委員会名			役職名			担当者名					
		事務局			事務局長			菅原 輝					
事業名		1月例会 新年交歓会 式典の部						公益事業番号					
開催日時		開催場所			参加人数				事業予算(決算額)				
2024年01月07日(日) 10:00～17:20		ベリーノホテル			対内		24名	対外		97名	合計	121名	55,090円
テーマ 新年交歓会の企画・運営													
事業内容					事業内容から得られる効果(結果)								
一関青年会議所は、明るい豊かな社会の実現のために日々運動を行っています。しかしながら、単年度制の組織のため、年度毎の理念や方針のもと運動の内容が変化していきます。多くの方々から今年度の一関青年会議所の運動への理解と共感を得ることが必要です。そこで、一関青年会議所の2024年度の運動方針への理解をし、共感していただくことを目的とし新年交歓会式典の部を開催しました。理事長鈴木達也君の所信表明は始めとして、一関青年会議所メンバー、各種委員会の1年間の方針を発表できました。事業後アンケートからも読み取れるように、多くの県外の方々、各種団体の方々に2024年度の一関青年会議所の取り組む運動方針への理解を得て、共感していただくことが出来た事業となりました。					新年交歓会の中で、2024年度一関青年会議所の新年度体制、理事長所信、基本理念、スローガン、基本方針、各委員会の運動について、内外に向けて周知し、理解を深めていただく事業となりました。 今年度の運動方針への理解と共感を得ることによって、各団体及び関係者との連携が強まったと考えます。								
外部出席者・経歴及びJCとの関わり					基本方針「子どもたちに傳えておいでと言える一関の創造」にどう繋がるのか(結果)								
一関市長 佐藤 晋仁様(祝辞) 岩手県県庁広域振興局一関総務センター所長 藤原 典光様(祝辞) 一関商工会議所会頭 小岩 晃弘様 一関青年会議所OB会 会長 佐々木 一嘉先輩 各種団体関係者 34名 一関青年会議所OB先輩の皆様 17名 各地青年会議所関係者 42名					参加された対外参加者が一関青年会議所の2024年度の運動方針に対して理解し、共感を深めていただいたことで、地域の特性を生かし、暮らしの質を上げ、安心して生活できるまちを創っていくための運動を起すきっかけとなり、子供たちに胸を張って「解っておいで」と言えるまちへ繋がったと考えます。								
その他提出物													





一般社団法人一関青年会議所 2024年度										報 告 書		
会議・委員会・グループ名					役職名			担当者名				
組織未来創造委員会					委員長			鈴木 陵				
事業名		交流フェス&スイーツパライズ～好きな物をすきなだけ～						公益事業番号		公益事業		
開催日時			開催場所			参加人数			事業予算(決算額)			
2024年2月24日(土) 11:30～14:00			ベリーノホテル一関			対内	26名	対外	69名	合計	95名	431,900円
テーマ		青年会議所というコミュニティの活用方法を知り、活動運動に共感してもらうことを目的とします。										
事業内容(200字)						全ての人がとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精要(200字)						
スイーツパライズという手法を使い、ターゲットを絞った集客を行い、交流フェスと題し、一関青年会議所メンバーの職業や普段の運動、活動を知ってもらう機会を提供しました。また、一関青年会議所の1年間の活動をムービーにまとめて、共感してもらえる事業を実施しました。 ・コミュニティの活用方法一覧表の作成 ・拡大小冊子の更新 ・1年間の活動ムービーを作成						一関青年会議所が普段どんな活動や運動をまず知ってもらい、そこに共感してくれる人には更に詳しい内容を説明をしていき仲間を増やしていくことが大切だと考えます。青年会議所メンバーは必ず40歳で卒業を迎えるので、持続的な組織を作るために継続的な会員拡大とメンバーへ対してのフォローが必要です。						
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)						全ての人がとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)						
café&Guesthouse kazuya様、ベリーノホテル一関様、菓子工房シェルブル様、常川園様、一関市長公室 女性活躍会議様						普段一関青年会議所がどんな活動を、どんな運動を起こしているのかを全く知らない方々へ知っていただく機会の提供ができてたと感じております。さらに拡大小冊子やムービーを活用し、我々が行っている活動、運動に共感してもらえるような仕組みも作ることができました。アンケート結果からもムービーを見て共感を得ることができたや普段会う事のし方と交流できたとの回答が多く、本事業は市民により良い変革を与えることができJC活動として成立したと推測致します。						
その他提出物												





一般社団法人一関青年会議所 2024年度				報 告 書			
会議・委員会・グループ名		役職名		担当者名			
自立地域推進委員会		委員長		加藤 昌範			
事業名		3月例会 未来はいつも妄想から始まる～地域の課題解決ハッカソン～			公益事業番号		
開催日時		開催場所		参加人数		事業予算(決算額)	
2024年06月15日(土)/16日(日) 08:00～19:30/08:00～18:00		一関工業高等専門学校 豊地内ファーストベンギンラボ		対内 24名 対外 11名 合計 31名		24,805円	
テーマ		デジタルで地域の課題解決					
事業内容(200字)		全ての人がとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)					
地域が持続的に課題を解決していくため地域課題をデジタルの力で解決していくために課題解決型ハッカソンを実施します。事業を二段階構成にし、第一段階でハッカソンを学び地域課題のブラッシュアップと解決策の考案を行い、一関青年会議所3月例会といたします。第二段階を課題解決型ハッカソン実施とします。段階的に事業を実施することで参加者ごとの役割をはっきりさせ、参加した方々全員に事業の有用性と個人の必要性を知っていただきます。		今回の事業を通して、地域課題解決を一関工業高等専門学校の学生が主体となって、デジタルでどのように解決できるかをしっかり考え、そしてアプリケーションの開発、グループワークでプレゼンテーション資料を作成し、アドバイザリーボードの心も動かすことが出来て、各行政も今後の実装実験に向けて、どのように進めていくのが良いかといった動きも出することも出来ました。このように今後の時代を担う子供たちが地域のためにデジタルを活用して解決策を考えることで、地方経済に貢献も出来る可能性も出ました。デジタルを活用した活動は今後も持続可能な事業になりました。					
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)		全ての人がとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)					
日本青年会議所 社会グループ社会構想会議(事業実施) - 一関工業高等専門学校(事業参加プレイヤー) - 一関市役所(アドバイザリーボード) - 一関商工会議所(アドバイザリーボード) - 一関市観光協会(アドバイザリーボード)		今年度は、日本青年会議所社会グループ社会構想会議様の事業を一関の地でいきました。事業を通して、デジタルを活用することで社会貢献や地域の課題解決を生み出すことが出来る事が出来たと感じております。そして、学生主体となり実装実験まで行いたいという前向きな意見が出ることで、それに対して学校側、行政関係者も動いてくれるという効果が生まれたと思います。一関地域だけでなく地方全体は、生産年齢人口が減少していく中で、現在と同様に財政を確保するためにもデジタルの力が必須になってきます。今回の事業を通じて一関工業高等専門学校とも太いパイプが出来たので、今後も一関高等専門学校だけでなく地域の学生も巻き込み、行政関係者や各事業者とデジタルで課題解決できるような運動を続けることは必要だと感じました。					
その他提出物		特になし。					



一般社団法人一関青年会議所 2024年度				報 告 書				カテゴリー	
グループ名		会議・委員会名		役職名		担当者名			
		地域未来創造委員会		委員長		高橋 亮			
事業名		COMMIT ICHINOSEKI～地域資源・特性を再認識しビジネスや地域づくりに活かそう～			公益事業番号				
開催日時		開催場所		参加人数		決算額			
2024年4月30日 07:00～17:00		観音溪		対内 50名 対外 7名 合計 62名		83,971円			
テーマ		～地域資源・特性を再認識しビジネスや地域づくりに活かそう～							
事業内容		事業内容から得られる効果(結果)							
①インバウンド動向調査、実証実験 観音溪に観光に来られる方々に求めて来られたのかアンケートを実施 ②一関地域の魅力を発信 ・餅つき体験ブース設置 臼と杵を準備し、来場者に実際に餅つきを体験していただき記念撮影を実施 ・餅の振る舞い ・ロサイのずんだ、ごまの二種類を準備し来場者に提供しました。 ・鏡開き体験ブース設置 鏡開きの樽、木桶を準備し来場者に鏡開きを体験していただき記念撮影を実施 ・地元の日本酒振る舞い 一関地域の日本酒を準備し来場者に提供しました。 ③について、ハッシュタグ「一関に来たらここ」を準備し来場者にSNSで発信していただけるように案内しました。		餅の振る舞い、地元の日本酒の振る舞いを実際に行うことで来場者から「これ美味しい！どこで買えるの？」など一関の魅力を初めて知った来場者が多く、まだまだ一関の魅力や価値が知られていない現状がありました。実際に事業を開催してみても一関市は観光地としてインバウンドだけではなく、地域外の来場者にも注目されていたり、アンケート結果から一関地域の文化など一関に関心がある方が多かったため今回の事業で収集した情報を関係各団体に発信するとともに、10月例会に繋げていきたいと考えます。							
外部出席者・経歴及びJCとの関わり		基本方針「子どもたちに帰っておいでと言え一関の創造」にどうつながるのか(結果)							
有限会社いび観光センター：事業構築での連携 一般社団法人一関市観光協会：事業構築での連携、協力、事業当日通訳 岩手県議会議員佐々木朋和様：事業構築、4月2日事前説明会ご協力 一関市役所商工労働部商政労働課：協力関係、事業当日参加、資料提供 一関市役所商工労働部観光物産課：協力関係、事業当日参加、資料提供 酒商 株式会社さとう屋様：ブース協力(鏡開き体験ブース) 大林製菓株式会社様：試食用もちの提供 地域活性化企業人同好会連様：インバウンドに関する情報提供 伊藤産花様：観音溪に関する情報提供 磐乃井酒造株式会社：日本酒の提供 黒崎の一酒造株式会社：日本酒の提供 観音溪産物株式会社：日本酒の提供		参加された参加者が一関地域の特性を活かし、経済の質を高め安心して生活できるまちを創っていくための運動を越えきつかけとなり、「帰っておいで」といえるまちへつながったと考えます。							
その他提出物									



報告書

報告書

公益社団法人日本青年会議所 2024年度				報 告 書				カテゴリー			
グループ名	会議・委員会名			役職名			担当者名				
	地域未来創造委員会			副委員長			千葉堅司				
事業名	“いち”から歩く御朱印“旅”～一関の「歴史」「商店街」「観光」の連携～						公益事業番号				
開催日時	開催場所		参加人数			事業予算					
2024年11月10日 9:00～15:34	ベリーノホテル		対内	23名	対外	13名	合計	36名	650000円		
テーマ	一関の「歴史」「商店街」「観光」の連携										
事業内容(200字)					事業内容から得られる効果(結果)						
御朱印デザインコンテスト 「一関八幡神社の新しい御朱印」で観光客を集め、商店街へ流れる仕組みを作る。 商店街へ流れる仕組み ①エピソード商店街：商店街で買い物をした現代の一関の魅力を体感してもらう。商店街（協力店舗）で買い物をした際に申込券を配布。 ②エピソード城下町：いち原の城下町散歩のルートをまわり一関市の歴史を体感してもらう。ルートを回った証として各観光地で写真を撮影。 ①が②を達成したのち、一関八幡神社を参拝することで限定御朱印を受けられる。					「一関八幡神社の新しい御朱印」のデザインが完成した。応募総数は43枚。応募者がデザインを作成するにあたり、一関地域について調査し、それを最終審査でプレゼンすることにより参加者の一関地域に対する知識が深まりました。 今後は新しい御朱印のパンフレットの配布やポスターの設置、SNSの発信などにより御朱印のPRを行い、御朱印により集まった観光客が商店街に流れる導線づくりを行っていきます。						
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)					基本方針「子どもたちに帰っておいでと言える一関の創造」にどうつながるのか						
最終選考会審査員 田村任顕：田村家第57代当主 小野寺康：一関八幡神社宮司 小野寺 正寿：一関市役所商工労働部部長 佐々木 賢治：一般社団法人一関観光協会 会長 菅原 照之：一関銀座会 副会長 小野寺 宏真：株式会社松栄堂 代表取締役 山岸 学：株式会社岩手日日新聞社 代表取締役 志田 友美：ファッションモデル					新しい御朱印と併せて、観光客が商店街に足を運ぶ仕組みを作りました。一関地域に足を運びなくなり、経済の活性化につながり、基本方針につながるものになったと考えます。						
その他提出物											



一般社団法人一関青年会議所 2024年度				報 告 書					
会議・委員会・グループ名	役職名			担当者名					
2025年度事務局	2025年度理事長予定者			阿部 真樹					
事業名	11月例会次年度アワー「9時だよ！全員集合！！」						公益事業番号		
開催日時	開催場所		参加人数			事業予算(決算額)			
2024年11月30日(土) 9:00～15:30	一関敬義文化体育施設(アイドーム)		対内	20名	対外	5名	合計	25名	69,650円
テーマ	～2025年度へ向けて～								
事業内容(200字)					子どもたちに帰っておいでといえる一関の創造に向けた内容の審査(200字)				
【第1部】 2024年度の運動について、各委員会から報告があり、その後2025年度理事長予定者である阿部真樹君より方針の発表を行いました。 【第2部】 社会人基盤力研究所代表 今村孝彦様によるチームビルディングプログラム「プロジェクトアドベンチャー(PA)」を行い、組織におけるコミュニケーションやを講義、アクティビティから学びました。					【第1部】 2024年度に各委員会が行った運動について、熱のこもった報告をいただきました。2025年度理事長予定者 阿部真樹君からは2025年度の運動の方針の発表とともに、メンバーへの協力を呼びかけました。 【第2部】 チームビルディングプログラム「PA」では講義でコミュニケーションを助ける素因や好循環につなげるために必要なことを学び、アクティビティでは講義の内容を活用して課題に取り組み、チームごとに速め方や結果に差が現れる興味深いものとなりました。				
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)					子どもたちに帰っておいでといえる一関の創造に向けた結果報告(400字)				
講師 社会人基盤力研究所 代表 今村孝彦様 他3名(補助) オブザーバー 有限会社南岩手環境					2024年度の運動については各委員会の運動、報告の熱意を感じることができました。もう少し時間をとれてもよかったと感じる報告でした。2025年度の運動については子どもたちが夢を描ける地域となるべく阿部真樹君の思いを受け取る機会となりました。 プログラムにおいてはコミュニケーションの中で気をつけることに対する気づき、再確認ができる機会となりました。				
※CD-R、DVD、プログラム等、デジタル資料を別途アーカイブ資料として提出する場合ご記入ください。									



※赤字は、記入例ですので削除してご使用ください。

一般社団法人一関青年会議所 2024年度										報 告 書																			
会議・委員会・グループ名										役職名										担当者名									
自律地域推進委員会										委員長										加藤 昌範									
事業名		デジタルと共に未来を切り開こう～デジタル時代を生き抜く、私たちの挑戦～																		公益事業番号									
開催日時				開催場所				参加人数										事業予算(決算額)											
2024年12月07日(土) 14:45～16:30				ペリーノホテル一関 2階「南の間」				対内		18名		対外		13名		合計		31名		108,950円									
テーマ		デジタルツールによる地域の課題解決推進																											
事業内容(200字)										事業内容から得られる効果(結果)																			
本事業は、3月例会にて地域が持続的に課題を解決していくために地域課題をデジタルの力で解決していくために課題解決型ハッカソンを実施しました。一関工業高等学校の学生に参加をしていただき、デジタルツールを活用して地域課題をどのように解決出来るか取り組みをしていただきました。そこで開発されたデジタルツールの実用化を推進していくために発表の場を設け、さらに協力機関と実装実験を行うことを対外に発信することで、デジタルを活用した地域課題解決への意欲を高めます。										本事業を通じて以下の効果が得られました。 ・デジタルツールを活用する事で地域の利便性の向上が見込まれることを対外関係者に広く理解してもらえました。 ・アドバイザリーボードや行政関係者の関心を惹くことができ、今後の実装実験への理解を深めていただきました。 ・参加者の方へ若者の発想力が課題解決を進める1つの選択肢だと感じてもらいました。 ・覚書調印式を行ったことで、実証実験への理解を深めていただきました。																			
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)										基本方針「子どもたちに帰っておいでと言える一関の創造」にどうつながるのか																			
一関工業高等学校(事業参加プレイヤー) 一関市観光協会(実証実験協力団体、アドバイザリーボード) 一関市役所(アドバイザリーボード) 一関商工会議所(アドバイザリーボード) 弘前大学教育学部特任教授 北原啓司 様(アドバイザリーボード)										今回の事業では、高専生の創意工夫と技術力を活かすことで、地域課題解決の新たな可能性を示しました。さらに、観光協会との協力覚書締結は、地域全体で若者のアイデアを育み、実現する土壌づくりを意味します。本事業を通じて、未来を担う子どもたちが「自分たちが地域を支え、より良い場所にできる」という実感を味わえ、一関の未来に希望を持てる基盤が築かれたと考えます。																			
その他提出物										特になし。																			



一般社団法人一関青年会議所 2024年度										報 告 書																			
会議・委員会・グループ名										役職名										担当者名									
事務局										事務局員										阿部 太樹									
事業名		2024年度 卒業式 式典の部																		公益事業番号									
開催日時				開催場所				参加人数										事業予算(決算額)											
2024年12月21日(土) 15:00～17:20				ペリーノホテル一関				対内		32名		対外		0名		合計		32名		136,408円									
テーマ																													
事業内容(200字)										子どもたちに帰っておいでと言える一関の創造に向けた内容の精査(200字)																			
現在の一関青年会議所は20歳から40歳までが所属することができる団体であり、40歳を迎えた会員が毎年12月に卒業します。我々現役メンバーは、卒業生へ今までの感謝を伝えるとともに、卒業生から想いを受け取る機会が必要です。卒業生の想いを受け取り、今後の活動への意欲をより強く持つことを目的として卒業式式典の部を開催しました。メンバーを代表して、遠藤勇作君、佐藤直君、阿部裕章君、千葉晴一君の送辞、卒業生、加藤昌範君、坂下立志君、阿部勇太君、阿部徹君の答辞から卒業生のこれまでの活躍と想いを受け取り、今後のJC活動への意欲が高まったことで、一関青年会議所としての活動・運動の質を高めることに繋がる事業となりました。										参加したメンバーそれぞれが、卒業生への送辞、卒業生からの答辞、式全体の中から卒業生の想いを受け取ることで、今後のJC活動への意欲が高まる事業になったと考えます。また、卒業生の想いを引き継ぎ、今後より強い意欲をもって活動することで、一関青年会議所としての活動・運動の質を高めることに繋がったものと考えます。																			
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)										子どもたちに帰っておいでと言える一関の創造に向けた結果報告(400字)																			
一関青年会議所08会長 佐々木 一嘉 (祝辞) 一関青年会議所08会メンバーの皆様 (35名)										参加したメンバーが、卒業生の想いを受け取り、今後の活動への意欲をより強く持つことで、地域の特性を生かし、暮らしの質を上げ、安心して生活できるまちを創っていくための運動を起こすきっかけとなり、子供たちに胸を張って「帰っておいで」と言える一関の創造へ繋がったものと考えます。																			
その他提出物																													



〈役員出向者報告〉

公益社団法人日本青年会議所 顧問
東北地区協議会 出向役員
阿部 徹

日本 JC の顧問の職をお預かりにするにあたり、一番大事にしてきたことは LOM の視点で日本 JC の運動を広げていくことでした。

日本 JC の運動を全国に展開をしていくことで重要なのは、全国各地の LOM やメンバーの現場の声、実状を把握して JC 運動の中身をブラッシュアップし、効果を最大限に還元していくことです。

その取組の中でも、出向者として一関 JC の現状を踏まえ、今に適した事業を紹介し、会員拡大を支援し、人を繋げ、LOM がさらに発展し続けていくことに尽力してまいりました。皆様のお陰で一関 JC は素晴らしい成果を成し遂げた 2024 年になったことと思います。

本年のこの成果が今後の一関や LOM に好循環を巻き起こすことにつながることを願って 1 年間の総括とさせていただきます。

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
副会長 坂下 立志

本年度は、東北地区岩手ブロック協議会へいわて JAYCEE アカデミー委員会担当の副会長として出向させていただきました。塾生の成長にひたすら向き合ったことで、改めて他者との関わり方を学ぶことが出来る卒業年度にふさわしい素晴らしい機会となりました。1 年間を共にしたアカデミースタッフ、約 90 名の塾生、そして御輩出いただきました岩手ブロック内各 LOM 理事長の皆様、本当にお世話になりました。

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
監査担当役員 阿部 勇太

公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会 2024 年度監査担当役員として出向いたしました。

事業実施をする過程で大事な議案書に不備がないか、予算執行と決算が適切に処理されているかを確認するのが主な役割でしたが、本当に多くのことを学ばせていただき、それらを LOM に持ち帰りメンバーに還元することができました。

結びに、岩手ブロック協議会 2024 年度会長中野圭君をはじめ、役員の皆様にはとてもお世話になりました。皆様方の今後ますますのご活躍をお祈り申し上げますとともに一年間出向という機会とお支えいただいた一関青年会議所メンバーに心より感謝を申し上げ出向者報告とさせていただきます。

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
岩手の未来創造委員会
委員長 阿部 賢太郎

2024 年度岩手ブロック協議会岩手の未来創造委員会では「行動を起こすことの重要性に理解と共感を生むこと」を目的に、①第 53 回岩手ブロック大会 in 大船渡メインフォーラムの企画・運営 ②県内各青年会議所によるアドベンチャーツーリズムのモデルコース策定の推進・支援という 2 つの事業に取り組みました。

メインフォーラムでは「行動とつながりがデザインするシン・イワテ」と題し、神奈川県鎌倉市で行われる地域活動「カマコン」の事例を紹介した後に、岩手県内で新たな経済価値を創出している(株)岩手ビッグブルズの水野社長、NextIWATE の上野代表、(株)かまいし DMC の河東代表にプレゼンターとして迎え、「カマコン式ブレスト」を体験しました。

アドベンチャーツーリズムモデルコース策定は 2024 年度日本青年会議所が一丁目一番地として取り組むインバウンド推進事業の一環として行いましたが、全国で出された 65 の実行計画書の内、7 つ実行計画書を岩手ブロック協議会所属の青年会議所から提出され、全国のブロックで一番の提出率とすることが出来ました。

これまで諸先輩方や地域の皆様からいただいたご指導、一関青年会議所の仲間の支えにより、名誉ある役職を無事に終えられたと強く感じております。感謝の気持ちを持ってこの経験を一関青年会議所の運動へ還元してまいります。

公益社団法人日本青年会議所
東北地区岩手ブロック協議会
事務局次長 鈴木 陵

岩手ブロック協議会 事務局次長として出向させていただきました。

この 1 年間、岩手県各地で会議の設えや人との出逢いをいただく中で培った経験を LOM へ還元し、そのいただいたご縁を大切に今後も JC 活動に精進して参ります。

出向という機会をいただいた一関青年会議所に感謝しております。また 1 年間サポートしていただいた皆様、本当に有難うございました。

<2024年度会員移動一覧>

<新入会員>	(21名)	阿部 太樹	君
		小野 真輝	君
		藤村 幸太郎	君
		伊藤 徳光	君
		菊池 京香	君
		外崎 麻美	君
		須田 景太良	君
		千葉 周太朗	君
		千葉 遼	君
		佐々木 聖将	君
		佐藤 清隆	君
		小野寺 俊太	君
		清水 康平	君
		佐々木 元希	君
		遠藤 勇作	君
		千葉 翔太	君
		熊谷 俊介	君
		吉田 琴音	君
		塩釜 康隆	君
		松本 大樹	君
		藤原 佳祐	君

<退会会員> (2名) 菅野 真奈美 君
吉田 琴音 君

<卒業会員> (4名) 阿部 徹 君
阿部 勇太 君
坂下 立志 君
加藤 昌範 君

資料編

青年会議所とは

理念と目的

青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、新しい世界のための推進力にならなければならないと考えます。

青年のこの夢を実現するため、同じ理想と使命感を持つ若い世代の人々を広く共通の広場に集め、友情を深めつつ、強く影響し合い、刺激しあって、“若さ”がもつ未来への無限の可能性を自分たちの手で効果的に描き出し、“明るい社会”を目指して、青年の情熱から生まれる果敢な行動を結集すべく、組織された団体が青年会議所(JC=Junior Chamber)です。

「われわれJAYCEE(青年会議所会員)は、社会的、国家的、国際的な責任を自覚し、志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう」との日本青年会議所綱領は青年会議所の決意、行動理念と目標を明確に表現しています。

特 質

青年会議所を他のすべての団体から区別する最大の特徴は、会員の“年齢制限”にあります。会員はいかなる人種、国籍、性別、職業、宗教であってもかまいませんが、年齢満20歳から40歳までであることを要し、“品格ある青年”でなければなりません。したがっていかに長期間にわたり、有能で活動的な会員であっても、満40歳に達したら退会しなければなりません。この素晴らしい年齢制限のゆえに、青年会議所は絶対に若さを失わず、常に希望に溢れ、未来に向かった前進を続ける団体として活動することができるのです。

青年会議所は世襲経営者のサロクラブではありませんし、単に社会奉仕を行う団体でもありません。青年会議所は未来を目指し、よりよき明日をめざしてわれわれの住む地域社会・国家・全世界のために、われわれが今日の犠牲を払うことを厭わず、常に進歩への挑戦を行う、理想と具体的総合的な施策をもった青年指導者の運動です。

組 織

会員は自分が住んでいる地域にある青年会議所に所属しています。われわれが会員であることは市民としての自発的な自由な意志によるのです。それゆえにこの運動の単位は、あくまで各地青年会議所の日常の活動にあります。

1949年2月、東京に始まった日本の青年会議所運動は、50余年の歳月を経て、戦後日本の民間運動の白眉といわれるほどの拡大発展をとげました。現在、日本の隅々にわたり、679都市で活動を続け、会員約32,400名を擁する、青年運動最大の団体となりました。全国679青年会議所はそれぞれ集まって、47ブロック協議会を構成し、さらにそれが日本を10地区に分ける地区協議会が集められ、それを総合調整する機関として日本青年会議所があります。日本青年会議所は国際青年会議所(JCI-JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL)に加盟して、国際的なJCの運動の一翼をになって活動していますが、世界中では約16万5000人の会員が同じ理念のもとに国際的な同志感をもって運動を続けています。

事業目標 “社会と人間の開発”

創立以来の“個人の修練、社会への奉仕、世界との友情”の青年会議所の三信条は、われわれの運動50余年の展開の中で、年を追って具体化され、青年会議所運動とは要するに、“指導力開発と社会開発”であるとの事業スローガンに固まってきました。われわれ会員は市民社会の一員として市民と共通の生活基盤に立ったものの考え方

見方を出発点とし、市民の共感を求め、住みよい明るい豊かなまちづくりに向かって努力するとともに、青年会議所日常活動の場を通じ、われわれ個人個人をよりよく開発することが青年会議所運動にほかならないと考えます。

青年会議所の“指導力開発”とは民主的な集団指導力あるいは集団運営能力の研究と実践であるといわれます。まず会員個人がすぐれた市民、職業人であるために自ら厳しく訓練し、さらに市民社会の中にあつて、市民が目標に向かつて一致協力するように働きかけながら市民とともに進む、その全過程が青年会議所のいう指導力開発です。

指導力開発を推進するもっとも有効な手段として、青年会議所は“社会開発計画”事業を中心とする運動をもっています。会員一市民が住むまちの明るい豊かな明日のために、それぞれのまちの問題を市民の中から掘りおこし、市民とともにその解決をはかるという方法です。

青年会議所運動は自由な自発的な意志により加入した会員の起こす運動であるからには、われわれのまちの運動、市民運動の中心でなければなりませんし、市民にその意志を認められなければなりません。

青年会議所の目標は明るい豊かな社会の創造であり、その新しい社会をリードするにふさわしい人を数多くつくることです。

青年会議所とその運動は決して完成されたものではなく、社会の進歩とともに、さらに発展していくと思われま

す。青年会議所は時代とともに新しい呼吸を続け、次々と新しい青年がこの団体を背負っていくでしょう。

青年会議所は常に英知と勇氣と情熱を持った青年を求めて、その門戸を大きく開いています。

(2000 字 解説文)

JC宣言文とその解説

JC宣言文

「日本の青年会議所は」

まず初めに、全国の会員にも外部の方にも、このJC宣言文の主体が誰なのかを明確にし、組織としての責任と役割、そして運動の方向性を再確認することが必要です。

「青年会議所は」と明示することで、この宣言文が会員個人ではなく、「組織」としての宣言であることを示しています。

また、「日本の」とすることで、国内における全ての青年会議所がJC宣言文の主語であることを明示し、志を同じくする全国の会員同士の強い「連帯」も表現しています。

「希望をもたらす変革の起点として」

青年会議所は、明るい豊かな社会を創るために、社会により良い変化を生み出す「変革」を運動として起こすことに挑戦し続けてきました。

物事のはじまりを意味する「起点」は、青年会議所が「率先して行動する組織(Do-tank)」であれという矜持を表現し、私達から社会変革を生み出していくという意志も表しています。

そして、その運動によって生み出すものの本質は、誰もが、社会と自らの人生をより良くすることができると実感する「希望」であることを示しています。

「輝く個性が調和する未来を描き」

昨今の潮流の中で、グローバリズムからナショナリズムへ、また利他から利己へと、行き過ぎた国家主義や個人主義が助長され、国家間のみならず地域社会の中においても「分断」や「対立」が生まれており、2020年に発生した新

型コロナウイルスの感染拡大によって、それは加速しています。

本来であれば、考え方や生き方の違いは二項対立の構図ではなく、多様性や包括性といった価値観の中で、異なる「個性」として尊ばれるべきものです。

「調和」は、同調を強要し個性を抑圧するものではありません。「人間の個性はこの世の至宝である」と信じる青年会議所は、特定の政治思想にも、また、ナショナリズムや宗教、人種、ジェンダーにも偏らず、あらゆる若者が挑戦できる社会に開かれた組織であるからです。

この様に、広がりつつある「分断」の時代において、様々な個性やアイデンティティの架け橋となる「未来を描く」強い意志を示しています。

「社会の課題を解決することで」

青年会議所は「社会に対して何をする組織なのか?」という問いに対する明確な答えを表しています。

地域に根差す青年会議所の運動は、社会の幅広い課題を抽出し、自らそれを解決することと位置付けています。

「社会の課題」とは、地域固有の課題だけではなく、経済の再生や少子化、高齢化といった国家的な課題、あるいは気候変動や人権問題といった国際的な課題を含み、およそ青年が取り組むべき様々な課題を包括しています。どの様な社会課題であっても、それは地域だけではなく国家や世界と複雑に関係し合っているからです。

だからこそ、私たちは、多面的な「社会課題」を解決する運動を地域毎に起こし、そして、私たちが持つ組織のネットワークによって全国、あるいは世界的な運動へと拡大させ、より良い社会を創り出すことができることを表しています。

「持続可能な地域を創ることを誓う」

日本の青年会議所は、1990年に「地方分権推進宣言」を、さらに、2019年には「SDGs推進宣言」を総会で決議しました。

「持続可能」とは、地域の人口や財政、環境を持続可能なものとするに留まらず、そこに住まう全ての人々が笑顔で生きがいを持ち、自ら挑戦し続けることができる社会を意味します。

全国各地の青年会議所が様々な社会課題を解決することで、自らが住まう地域を持続可能なものとし、そしてその総和によって「明るい豊かな社会」を創ることを誓う形で宣言しています。

JC三信条とその解説

トレーニング（個人の修練）

サービス（社会への奉仕）

フレンドシップ（世界との友情）

■ 1950年5月1日、現在の日本青年会議所の前身とも言えるJC懇談会が開かれ、JC運動の行動綱領として上記の3つが採択された。

■ つまり、JC運動なるものは、まず若い人びとが集まって自己啓発、修練をするものであり、ついでその力を用いて地域社会にサービスするものであって、さらにそのトレーニング・サービスに徹することも、またひとしくトレーニングにつながるものである。

■ この三信条は非常に単純ではあるが、ここに今日の指導力開発の萌芽を求めることができる。この機会に、その代表的な解釈を述べておく。

「三信条はJC生活規範だ」

第1の解釈は、「3つの信条は分けられない。有機的につながっている」という立場である。3つの原則が同じレベルにあるとする考え方だ。

この見方は、JC三信条がキャッチフレーズとして誕生した当時のいきさつを考えればもっとももうなずけることである。

JCI東京の創立20周年記念誌には、「……このJC運動なるものは、まず若い人々が集まって自己啓発、修練をするものであり、ついでその力を用いて地域社会へのサービスをするものであって、さらにそのトレーニング・サービスを支える力として全員全体を貫くフレンドシップがある。一方、フレンドシップを培うことも、サービスに徹することも、またひとしくトレーニングにつながるものである。と理解されたのであった。」とJC三信条採択時のようすが記されている。

第2は、「奉仕」を強調する立場である。「奉仕を実践する過程で、修練と友情が達成される」とする。森下泰元会頭は、JCの目的について、「JCの目的は、知識ある青年たちの“社会的権威の実現”にあり、それは“対社会的義務”でさえある。社会的権威の実現、すなわち“社会奉仕”の内容は歴史的社会的に決定せられその過程において修練と友情は達成される。」と、第2の立場を代表して述べている。

第3は、「修練」を強調する解釈である。「JC3信条の奉仕・修練・友情は同レベルのものではない。修練のための奉仕であり、修練場としての友情である」とする立場に立つ。

1963年に発刊されたマニュアル『LT - BooK』には、第3の立場を代表して、次のような1節がある。「……我々周知の3つの路線“トレーニング”“サービス”“フレンドシップ”は、実は並列的等価のものではなくて“トレーニング”に重点があることは明らかで、……青年会議所活動とは“社会のためになる様な行動を通じて行うリーダーシップ・トレーニング”のことだ。」

用語説明

①JC

JUNIOR CHAMBERの頭文字をとったもので
組織としての青年会議所の意。

②JAYCEE (Jayceeでも可)

青年会議所会員個々人のこと。(注:但し、この使い分けは、英語圏のNOMではそれほど厳密ではない。)

③JCI

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONALの頭文字をとったもので、国際青年会議所の意。各国青年会議所の連絡・統合・調整機関であり、本部はアメリカ・ミズリー州セントルイスにある。

④NOM(ノム)

NATIONAL ORGANIZATION MEMBERの頭文字をとったもので、国家青年会議所の意。例えば日本青年会議所は、国政青年会議所の中の1NOM(国際青年会議所)である。

⑤LOM(ロム)

LOCAL ORGANIZATION MEMBERの頭文字をとったもので、国家青年会議所の中に属する各地会員会議所の意。現在、日本青年会議所の中には684LOM(各地会員会議所)がある。(2022年1月)

⑥地区協議会

日本青年会議所としての事業計画・方針などを各ブロック及び各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では、各地青年会議所の事業活動・意見などを日本青年会議所に報告や連絡する為の機関である。

現在、日本青年会議所は10区分されており、10の地区会員会議所があり、主な事業としては、各地区会員大会の主催がある。

※DOMといった表記が一部使われていますが、誤りです。

⑦ブロック協議会

日本青年会議所及び地区協議会としての事業計画・方針などを各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では各地青年会議所の事業活動・意見などを、日本青年会議所及び地区協議会に報告連絡する為の機関である。

現在、日本青年会議所には47ブロック協議会があり、主な事業としては、各ブロック会員大会の主催がある。

※BOMといった表記が一部使われていますが、誤りです。

⑧JCデー

日本において最初に青年会議所が開始された1949年9月3日を記念して、毎年9月3日をJCデーと称している。

アクティブシチズンデー

毎年12月11日には、JCI本部において、本年度と次年度JCI会頭出身国の国旗が入れ替わる日となっており、2010年の世界会議大阪大会において、正式にその日の名称が決められた。なお、このアクティブシチズンとは、行動する市民と訳すことが出来、JCI日本の会員のJC活動こそがJAYCEEとしてあるべき姿と考えられて、JCI日本のメンバーのことを示すとも言われている。

⑨承認伝承伝達式

新規に設立を承認されたJCに対し、JCI日本からその承認証が正式に伝達される時の式典である。

⑩スポンサーJC

青年会議所未設立の地域の青年有志にお働きかけ、設立を指導援護する青年会議所のこと。

※一関青年会議所のスポンサーJC・・・JCI盛岡

※JCI水沢、JCI大船渡のスポンサーがJCI一関

⑪シスタJC

国際青年会議所に加盟している国家青年会議所に所属する青年会議所の相互間の親善と友好の為に、相互の交流を行う締結関係を結んだ青年会議所のことで、姉妹JCともいう。

⑫世界会議(ワールド कांग्रेस)

国際青年会議所が主催する年1回開催される世界会議のことで、国際青年会議所の事業計画・予算の決定・役員選出・褒賞の授与・翌年度の開催地の決定などが行われるJCI最高の意志決定機関である。開催地は毎年異なるが、開催中には総会・理事会・常任理事会・分科会・視察ナショナルパーティー・アワードバスケットなどがプログラムされている。第1回JCI会議は1946年パナマで開催された。

⑬エリアコンファレンス

国際青年会議所は世界の加盟NOMを地域別に4つにわけている。アフリカ・中近東地域(旧エリアA)、アジア・オセアニア地域(旧エリアB)、南北アメリカ地域(旧エリアC)、ヨーロッパ地域(旧エリアD)の各地域で年1回5月から6月に行われる国際会議をエリアコンファレンスと呼び、アジア・太平洋地域のエリアコンファレンスは、ASPAC(アジア太平洋地域コンファレンス-ASIA PACIFIC AREA CONFERENCE)という名で親しまれている。

⑭直前会頭・直前理事長

単年度制をとっているJCでは、日本青年会議所前年度会頭を直前会頭、LOMの前年度理事長を直前理事長と称している。地区・ブロックでは、直前会長と呼ぶ。

⑮日本JCシニアクラブ

日本JCシニアクラブは、JC卒業生同窓会として相互の親睦を図るとともに、現役活動を陰ながら援助しようという目的で1960年設立された。JC卒業生ならだれでも入会出来る。

⑯セネター制度 (SENATOR)

JC終身名誉会員制度のことで、JCI運動に多大なる貢献をしたメンバーをLOMが承認・推薦し、NOM及びJCIの認証を得てその資格(修身番号)が与えられる。与えられた終身番号は、会員の死後も永久に残るという名誉ある資格である。

⑰出向者

各地青年会議所より国際青年会議所・日本青年会議所・地区協議会・ブロック協議会へ役員や委員として出していくメンバーのこと。

⑱「WE BELIEVE」

JCI日本は、対外的・対内的な広報活動の強化と、拡充を図るために、月刊誌「WE BELIEVE」(毎月1回15日発行、A4判)を全会員に配布している。

⑲セミナー

講師の指導のもとに参加者が集って、討議して進める共同研究のことで、ゼミナールともいう。

⑳シンポジウム

語源はギリシャ語といわれて親しい者同士がなごやかに食事をする意である。ある大きなテーマを中心に多くの報告者によって各々の立場から関連したことが講演形式によって述べられる。この特徴は、討論のないことと、あらゆる立場からテーマについて浮き彫りにされるということである。討論は行われないが、各報告に対する質問は許される。

㉑パネルディスカッション

パネリストによる密度の高い座談会義である。多くの者が全員討議するかわりに数名のメンバーを選んでそのメンバー間で自由に討論してもらう形式である。

㉒コロッキー

パネルディスカッションと同様の形式による会議法で、途中専門家が追加出席して意見を述べ、討論が一方的な方向へ行かない様にコントロール出来る。

②③バスセッション

討論方法である。まず皆が発言できるような小グループに分け、ここで個人個人の意見を自由に表現させ、その意見を調整し、持ちより、全員参加の総会を開く。即ち全員に発言を許し、会議の討論に貢献させる方便として考えられた。この小グループによる話し合いの過程をバスセッションという。

②④ブレインストーミング

皆が集まって、あらかじめ議題を定めず、何人にも拘束されずに自由に自己の創造的アイデアを思いつくままに出していき、集団の集中的ディスカッションによって良い考えを発見・発展させようとする方法。(集団的創造力開発の方法)

②⑤フィリップ66方式

バス形式に似たもので、多人数の場合小グループ(6人)に分け、6分間という時間を定めて短時間に集中的に各グループが会議を行う方式のこと。66式討議ともいう。

②⑥KJ法

川喜田二郎氏によって開発された創造力開発の手法。紙切れ法とも呼ばれ、本調査員関連があるか否かの判断をしないで、ひたすら情報をカード化し、その後に、ある一定の方法でこれを組み立てて判断するという手法。例えば、グループごとに話し合い、全体会議で発表してまとめていく。

②⑦ロバート議事法

ロバート・ルールズ・オブ・オーダー。「多数者の権利」・「少数者の権利」・「個人の権利」・「在不在者の権利」の4つの権利と、「一時一件の原則」・「一時不審議の原則」・「多数決の原則」・「定足数の原則」の4つの原則を基本的なルールとして行う会議運営の方法。これは国連をはじめ、世界各国で採用され、青年会議所でも正式に採用されている。

②⑧コーディネーター

会議の際に、それまで出された意見を集約、調整し、会議を進行させる担当者。

②⑨アドバイザー

パネルディスカッションなどの討議会の時に、会議を進行させる為に助言を行う講師のこと。

③⑩パネリスト

パネルディスカッションを行う時に、各分野から出席する数名の意見発表者のこと。

③⑪CD

コミュニティー・ディベロップメントの略で社会開発のこと。

③⑫LD

リーダーシップ・ディベロップメントの略で指導力開発のこと。

③⑬MD

マネージメント・ディベロップメントの略で経営開発のこと。

③⑭LIA

リーダーシップ・イン・アクションの略で、LDが発展拡大したものである。個人と集団の指導力を開発するプログラムで、実践指導力開発と邦訳されている。1968年のマルデルプラタ世界会議でJCI恒久プログラムに採択された。

③⑮HD

ヒューマン・ディベロップメントの略で人間力開発のこと。

③⑯AOY

アクセント・オン・ユースノ略で、青少年開発のこと。その地域社会に住む青少年を参加させて、地域社会の開発の為に良き道を見出すよう青年達を助ける方法を提供するプログラムである。1970年にダブリン世界会議でJCI恒久プログラムに採択された。

③7 三分間スピーチ

LD手法の一つで、電話一通話の時間内即ち三分間で自己紹介から始まり、テーマにそったスピーチを完了させる方法。

③8 FC構想

フューチャークラブ構想の略で、青少年が手をつなぐ運動のこと。地域社会にある既存の青少年グループ。会員自身の子弟、会員の経営する企業内の勤労青年などを始動団体として、明日の日本の為の広場づくりを進める働きかけのことである。

③9 カテゴリー

本来の意味は、同一性のものが属する部類を指すが、国際青年会議所では、重点事業の項目のことをいう。

④0 チャーターメンバー

各地青年会議所会議所が設立された時に入会した初代会員の呼称。

④1 スリーピングメンバー

資格を持ち、活動が義務付けられているにもかかわらず、その活動及び例会・総会などにも積極的に参加しない会員のこと。

④2 アクティブメンバー

スリーピングメンバーの反対の意。全体の中の個人・個人であっての集団であることの自覚を持ち、そして責任を果たし、社会開発と自己開発に挑戦し、活発に行動する会員のこと。

④3 ガイダンスメンバー

オリエンテーション、委員会等でガイダンス勉強期間中の新入会員の呼称。

④4 アテンダンス

総会・例会・各会合に出席することをいう。そして出席の証しをアテンダンスカードと呼ぶ。

④5 エントリー

褒賞獲得や、または大会誘致等々の為に立候補申請することをいう。または出向者の推薦及び登録のことをさす。

④6 アジェンダ

理事会や委員会等を運営する時の式次第のこと。

④7 マニュアル

手引書のこと。日本JCには組織に関するもの、運営に関するもの、事業に関するもの等多くのマニュアルを持っている。

④8 人間力大賞(旧TOYP大賞)

各地で、様々な分野で、素晴らしい考え方をもちそれを実践し、まちの地域市民として活動を続けている将来性のある若者(TOYP=傑出した若者)の功績を讃え、その運動を広く紹介するとともに、そこから学ぶことを目的としている。

④9 褒賞

青年会議所運動を通じて地域に貢献した会員会議所を称え、その名誉を全国に発信するとともに、各地会員会議所がこれらの事業を参考として新たな気づきや学びを得る機会とし、関わるすべての人に地震や誇りを与え、メンバーのモチベーションや未来の青年会議所運動の発展に資することを目的に褒賞制度を設けている。

⑤0プロボノ

ラテン語のPro Bono Publico(良い公共のために)を略した言葉。JCにおいては「公共の利益のためのスキル提供による無料奉仕」と定義し、社会人が仕事を通じて培った専門的知識やスキル・経験やノウハウなどを活かして社会貢献することを意味する。

新入会員のために

新入会員の心得

(1) 新入会員の心得

1. 充実したJCライフをおくる為に、JCをよく理解しなければならない。
2. 常に自分の考えをわかり易く表現することができなければならない。
3. 常に若さと活気に溢れ、笑顔を忘れてはならない。
4. 会員としての責任感を持ち、積極的に参加しなければならない。
5. 進んで難しい仕事に当たり、責任をもって完成させなければならない。
6. 議事法ほか会議の進め方をマスターしなければならない。
7. 完全な議事録を作成できなければならない。
8. 会議の議長を務めることができないといけない。
9. 与えられた時間で自分の意見をまとめ、発表できなければならない。

(2) 会員の心構え

1. 常に高い目標を持ち、その目標に向かって努力しなければならない。
2. 自分自身を識り、向上させなければならない。
3. 目的に向かって計画的に自己を管理しなければならない。
4. 特に自分自身の健康管理をしなければならない。
5. 確固たる信念と強い意思のもとに、目標に向かって直ちに行動を開始すること。
6. 一日一度は自分を見直すこと。
7. 地域高青印の一人として、地域社会の活動に進んで参加しなければならない。
8. 正しいJC運動を地域社会に広めなければならない。

(3) JC会員としてのマナー一人ひとりの言動や行動が多くのか員あるいは組織の品位を傷つけることにつながるから、会員としてのマナーを厳守しなければならない。

1. 品格ある青年として行動する。
2. 常に礼儀正しい服装をし、必ずバッヂをつける。
3. 常に他人に対し、不快の念を与える言動を慎む。
4. 常に他人の話聞く、その権利を尊重する。
5. 諸通知の出欠ハガキは、すみやかに必ず返信を出す。なお、出欠の変更又は遅刻の場合は、必ず事前に事務局まで連絡する。
6. 諸会合には定刻に出席し、時間の無駄使いをしない。また、諸会合に出席した時は、必ず署名登録をする。
7. 発言する時は、挙手して上衣のボタンをかけ、所属および氏名を明確に述べる。
8. 諸会合では、私語・雑談を慎む。
9. 先輩には敬意を示し、挨拶をすると同時に名刺を交換する。
10. 会員同士の付き合いには、相手の人格を損なわないように敬意を示し、笑顔で握手する。